

ユカラ  
**YÚKAR 1**  
 コタン シツチレ  
**KOTAN SITCIRE**  
 モシリ シツチレ  
**MOSIR SITCIRE 1**

ユーカラ 1  
 村焼き国焼き 1

1958年5月4日 平賀サダ

|                              |   |            |
|------------------------------|---|------------|
| ウサ ウバシクマ<br>usa upaskuma     | 1 | いろいろな言い伝えを |
| ウウォエロシキ<br>uwoeroski         | 2 | 次々に        |
| クキ ワ ネ チク<br>kuki wa ne cik  | 3 | 語って聞かせますから |
| クサウタリ<br>kusautari           | 4 | 姉さんたち      |
| エチヌ ナンコロ。<br>5 ecinú nankor. | 5 | お聞き下さい。    |
| エネ ネ カトウ<br>ene ne katu: —   | 6 | つまり: —     |
| イレス サポ<br>iresu sapo         | 7 | 育ての姉に      |
| イレスパ キ ワ<br>irespa ki wa     | 8 | 育てられて      |

【数字は行番号を示す。】

- 1-6) 初めの6行は、語り手のサダモさんが聞き手に向かって言っている前置きである。ここからすでにユーカラのふしで歌っている。
- 4) ku-sa-utar-i ク・サ・ウタリ《私の・姉・たち・(所屬形語尾)》。聞き手の女性たちのことを言っている。
- 5) eci-nu nankor エチ・ヌ・ナンコロは直訳すると《あなたたちは・聞く・でしょう》。婉曲な命令表現の一つ。
- 7) i-resu sapo イ・レス・サポ《人を・育てる・姉》つまり《育ての姉》。ここからが主人公の少年の自叙となる。
- 8) i-respa イ・レスパ《私を・育てる・(複)》。育てられたのは主人公の少年一人だけでも、複数形が使われて、姉が二人以上を育てたかのような表現となっている。ユーカラでは、神や神に近い勇者の話が出るときはこれが普通である。以下、いちいち注でとりあげることはしないが、一人のことに関する表現に複数形が続出する。

|                               |    |               |
|-------------------------------|----|---------------|
| ランマ カネ<br>[u]ranma kane       | 9  | いつもいつも        |
| オカアン カトゥ<br>okaan katu        | 10 | 暮らしていたことを     |
| アノモンモモ.<br>anomómmomo.        | 11 | 私はつぶさに述べる。    |
| イレス チャシ<br>iresu cási         | 12 | 育てられた城        |
| 5 チャシ ウァソロ<br>[u]cási upsor   | 13 | 城の内部の         |
| コヤイカラ ルウェ<br>koyaykar ruwe    | 14 | 作りようは         |
| エネ オカ ヒ.<br>ene oka hi.       | 15 | 次のよう。         |
| シカリ チュプ ノカ<br>sikari cup noka | 16 | 満月の形          |
| ニン チュプ ノカ<br>[u]nin cup noka  | 17 | 三日月の形         |
| エアルワト.<br>10 earuwato.        | 18 | ばかりの模様に満ちていた。 |

- 9) ranma kane ランマ・カネは直訳すると《いつもいつも》だが、語り手は、次の行と合わせて、「までえにあずかって(=大切に育てて)くれたことを」と説明している。1行5音節を原則とするリズムに合わせるため、行の頭に母音 u が加えられている。これを [u] で表す。以下同様。
- 11) an-omommomo アン・オモムモモ《私は・こまごまと詳しく述べる》。他動詞の不定人称主格接頭辞はこの沙流方言では通常 a- ア- だが、ふしをつけてユーカラを歌うときに、母音の前でしばしばこのように an- アン- の形をとる。
- 12) cási チャシ は、この場合戦いのための城やとりではなく、住居である。「4. 日本語訳について」を参照。
- 13) upsor ウァソロ《懐中》が upsooro ウァソロ と発音されている。このように r で終わる語の場合、歌うふしのために語末をのぼすとき、r の前の母音が後にも現れて、開音節のように発音されることがしばしばある。この母音は音節数には入らない。
- 16-17) sikari cup シカリ・チュプ《丸い・月》、nin cup ニン・チュプ《減って小さくなった・月》を語り手はそれぞれ「満月」「三日月」と訳している。月の形の模様は、後にわかるように、育ての姉神の素性を象徴している。392-393 行目にも同じ表現が出てくる。

|                                   |    |                |
|-----------------------------------|----|----------------|
| タン イヨイキリ<br>tan iyoykir           | 19 | 宝器が            |
| ランペシ クンネ<br>[u]ranpes kunne       | 20 | 山のようにいっぱい      |
| チシトゥリレ.<br>cisiturire.            | 21 | 陳列されていた。       |
| イヨイキリ エンカ<br>iyoykir enka         | 22 | 宝器の上の方に        |
| 5 [u]nispa mut pe<br>ニシパ ムツ ペ     | 23 | 長者のはくような立派な刀が  |
| オトウ サントウカ<br>otu santuka          | 24 | 何本もの柄(つか)が     |
| オウカウイル.<br>[u]owkauyru.           | 25 | 重なるようにかけてあった。  |
| イヨイキリ モンポク タ<br>iyoykir monpok ta | 26 | 宝器の積んであるそばに    |
| カネ アムセツ<br>[u]káne amset          | 27 | 金(かね)の高床(たかどこ) |

- 19) tan iyoykir タン・イヨイキリ 《ここの<sup>ほかい</sup>・宝器の山積み》. iyoykir イヨイキリ は i-o-ikir イ・オ・イキリ 《ものを・入れる・山積み》, sintoko シントコ 《行器》や, patci パッチ 《鉢》など、ぬりものの上等の器が、宝物として家の中の東北側の壁の前に陳列されているのをいう。
- 20) ranpes kunne ランペシ・クンネ 《海岸の下の段丘・のように》. ranpes ランペシ は ra-un-pes ラ・ウン・ペシ 《下・の・海岸段丘》, 語り手によれば、海岸の段丘が二段になっていて、その下のほうのものをいう。日常語では sa un masar サ・ウン・マサラ という。 rik-un-pes リク・ウン・ペシ 《上・の・海岸段丘 [日常語の mak un masar マク・ウン・マサラ] の対。 kunne クンネ は kur-ne クル・ネ 《影 (= 形様) になって》, つまり 《のよう (な形) に》。
- 24) tu トウ は 《二つの》, o- オ- は不明。 tu トウ... re レ... (396-397 行目参照) と同様に, otu... ore... オトウ... オレ... も 《二つも三つも》つまり 《いくつもの》を表すが、しばしばこのようにその前半だけでも用いられる。 santuka サントウカ は 《刀の柄》。 san サン は 《(前に)出る》。語り手によれば、かけてあるときに santuka サントウカ といい、抜くときは nipihi ニピヒ 《柄、ついている棒》という。
- 26) mon-pok モン・ポク 《手・の下》は、《...のすぐ下、すぐそば》。
- 27) amset アムセツ 《高床<sup>たかどこ</sup>》はユーカラの表現で、日常語では set セツ という。これは通常《寝床》や《(熊)檻》をさす。 am- アム- の意味は不明だが、ユーカラの中で、名詞の接頭辞としてときどき出てくる。 kurka クルカ は日常語で 《...の上面一帯》をいうが、ユーカラでは、日常語で単に ka カ 《...の上》というようなときにも、しばしば kurka クルカ が用いられる。この行の場合は、日常語で set ka セツ・カ 《高床・の上》と言えは 2 音節のところを、amset kurka アムセツ・クルカ と言えは、4 音節になり、さらに行の頭に母音 u をつけて、5 音節にして歌っている。

|                                 |    |                 |
|---------------------------------|----|-----------------|
| アムセツ クルカ<br>[u]amset kurka      | 28 | 高床の上で           |
| アヤヨレス<br>ayayóresu              | 29 | 育てられて           |
| アナン カトウ<br>[u]ánan katu         | 30 | いた様子を           |
| アノモンモモ.<br>anomómmomo.          | 31 | 私はつぶさに述べる.      |
| エパコロ サポ<br>5 epakor sapo        | 32 | 私の姉は            |
| エキムネ キ コロ<br>ekimne ki kor      | 33 | 山へ行っては          |
| トイトイ ウシ カム<br>[u]toytoy us kam  | 34 | 土のついた肉          |
| トイトイ ウシ チェブ<br>[u]toytoy us cep | 35 | 土のついた魚を         |
| セ ワ イワツ ワ<br>se wa iwak wa      | 36 | 背負って帰って来て       |
| イエピリカクル<br>10 iepirkakur        | 37 | 私を大切に           |
| レスパ カネ<br>[u]respa kane         | 38 | 育て              |
| カバラベ オツチケ<br>kaparpe otcike     | 39 | うすづくりのぬりもののお盆に  |
| カバラベ イタンキ<br>kaparpe itanki     | 40 | うすづくりのぬりもののおわんを |

29) a-yay-o-resu ア・ヤイ・オ・レス 《ひとが・自分を・そこで・育てる》は、ユーカラでは《そこで育った》ことをいう。o- オ-《そこで》は amset kurka アムセツ・クルカ《寝床の上》を受ける。

34-35) toytoy us トイトイ・ウシ 《土・ついている》について、語り手は「大きなクマもとれないので、だれかのとった肉の切れはしでも落ちているのを拾ってきたのだろう」と言う。また、「土のついた」は「新鮮な」を意味するという他の古老の説明もある。

37-38) i-e-pirka-kur-respa イ・エ・ピリカ・クル・レスパ 《私を・それで・よく・(影)・育てる》つまり、その肉や魚を食べさせて大切により養育をしてくれたことを言っている。語り手は「きれいにして食べさせて」と説明している。kur クルは、ユーカラでよく特に意味を持たずに使われる。この行はこれで5音節に整っている。

39-40) kapar-pe カバラ・ペ 《薄い・もの》は、語り手によれば、ぬりもの(のお膳やお椀)。

|                                |    |            |
|--------------------------------|----|------------|
| ウウォエロシキ<br>uwoeroski           | 41 | たくさん並べて    |
| イコイブンバ<br>[u]ikoypunpa         | 42 | 私に供し       |
| イレシバ カトゥ<br>irespa katu        | 43 | 育ててくれたことを  |
| アノモンモモ.<br>anomómmomo.         | 44 | 私はつぶさに述べる. |
| タネ アナクネ<br>5 tane anakne       | 45 | 今はもう       |
| セモロ ポロノ<br>semor porono        | 46 | 私はかなり大きく   |
| アナン キ コロ<br>[u]ánan ki kor     | 47 | なって        |
| イコロカ スイエ<br>ikorka nuye        | 48 | 刀のさやに      |
| トミカ スイエ<br>tomika nuye         | 49 | 彫刻をし       |
| タパン ペ バテッ<br>10 tapan pe patek | 50 | このことばかりを   |
| ネヅキ ネ アキ<br>nepki ne aki       | 51 | 仕事にして      |
| アナン アワ<br>[u]ánan awa          | 52 | いたが        |
| シネ アン ト タ<br>sine an to ta     | 53 | ある日のこと     |
| ニサプラム タ<br>[u]nisapram ta      | 54 | ふと         |

48-49) tomi トミは《宝》. ikorka nuye イコロカ・スイエ も tomika nuye トミカ・スイエ も共に、刀のさやに彫刻することを言う。同義の語を並行的に使った対句は、アイヌ語の韻文や美文表現でよく使われる手法である。同じことをよく sirka nuye tomika nuye シリカ・スイエ・トミカ・スイエ という。sirka シリカ《刀のさや・の上》は、やはり《刀のさや》の表現の一つ。ikor イコロ は、語り手によれば「刀のような形をしたもの」、宝物置き場に飾られる刀《宝剣》をいう。ka カは《の上》。「これがたくさんあるのは nispa ニシパ《長者》だから tomika トミカ という」と語り手は説明している。

54) nisap-ram ta ニサプ・ラム・タ《急な・心・に》つまり《突然、ふと》。

|                              |    |            |
|------------------------------|----|------------|
| エキムネ ルスイ<br>ekimne rusuy     | 55 | 山へ行きたく     |
| エバキ クス<br>epaki kusu         | 56 | なったので      |
| アキホブニ.<br>akihopuni.         | 57 | パツと立ち上がった. |
| アペエトク<br>apeetok             | 58 | 横座に        |
| アコイサンコッカ<br>5 akoy sankokka  | 59 | ひざを        |
| エシツチウレ ワ<br>esitciwre wa     | 60 | そろえてすわり    |
| イレ ス サポ<br>iresu sapo        | 61 | 育ての姉に      |
| アコイタク ハウエ<br>akoytak hawe    | 62 | 向かって話しかけ   |
| エネ オカ ヒ.<br>ene oka hi.      | 63 | 次のように言った.  |
| コニンカラ クス<br>10 koninkar kusu | 64 | 「よく聞いて下さい  |
| エバコロ サポ<br>epakor sapo       | 65 | 私の姉さん      |
| シネン エネ ワ<br>sinen ene wa     | 66 | あなたは一人で    |

56) epa-ki エパ・キ=a-ki ア・キ《私は・する》。韻文では、a- ア- が epa- エパ- となるのがよくある。これでこの行は5音節に整っている。

59-60) ひざを折って坐るのは、語り手によれば「遠慮のない」様子で、主人公は強いからこのような坐り方をした。ふつうはあぐらをかく。それは amakirpo uhosire アマキリポ・ウホシレ と言い、「遠慮している（謙遜にかしこまっている）」様子を表す、という。

64) koninkar kusu コニンカラ・クス は「よく聞いて下さい」という意味だと語り手は言い、その後には itakan ciki / akor sapo / pirkano nu yan イタカン・チキ / アコロ・サポ / ピリカノ・ヌ・ヤン 《私がものを言うから / 我が姉よ / よく聞いて下さい》を補って説明している。

65) epa-kor エパ・コロ=a-kor ア・コロ《私が・持つ=私の》。epa- エパ-=a- ア- (前出)。

|                               |    |           |
|-------------------------------|----|-----------|
| タパン テ パクノ<br>tapan te pakno   | 67 | 今まで       |
| パロ チオイキ<br>paro cioyki        | 68 | 私を養って     |
| イエカラカラ ヒ<br>iekarkar hi       | 69 | 下さったが     |
| アエオリパク<br>aeéoripak           | 70 | それでは申し訳ない |
| キ ワ クス<br>5 [u]ki wa kusu     | 71 | から        |
| タナン トオロタ<br>tanan to or ta    | 72 | 今日は       |
| エキムネアン ヤク<br>ekimnean yak     | 73 | 私が山へ行って   |
| ユク チコイキア<br>[u]yuk cikoykip   | 74 | シカをとり     |
| カシ チオセ<br>kasi ciose          | 75 | 背負って来て    |
| アエカラカラ<br>10 aeékarkar        | 76 | あげ        |
| キ クシ ネ ナ.<br>[u]ki kus ne na. | 77 | ますから.     |

67) 日常語で te pakno テ・パクノ《ここ・まで=今まで》だが、韻文ではよく前に tapan タパン《この》をつける。これで5音節に整う。

68-69) ci-... i-ekarkar チ-...イ・エカラカラ《(あなたが)私を / に...する》, paro o-iki パロ・オ・イキ《その口・の所に・ものごとを・する》は《...を養う》. i-ekarkar イ・エカラカラ iyekarkar はイイエカラカラと発音されている。このように、母音で始まる動詞の前に i-イ-がつくとき、発音上よく間に y が入る。

70) a-e-eoripak ア・エ・エオリパク《私は・あなたに・そのことで遠慮する》つまり《私はあなたに恐縮に思う》を ay'eoripak アイエオリパクと発音している。この語り手の言葉では、ae アエ は多くの場合 ay アイ という二重母音になる。それでこの行は5音節に整っている。

72) tanan to or ta タナン・ト・オロ・タ《この・日・の所・に》は、日常語の tanto タント《今日》(tan-to タン・ト《この・日》)に当たる韻文の表現。これで1行が5音節となって整う。or ta オロ・タ は otta オッタ と発音される。

75-76) cl-... a-e-ekarkar チ-...ア・エ・エカラカラ《私が・あなたを / に...する》, kasi o-se カシ・オ・セ《その上・に・背負う》は、《持つて行く / 来る》. ae- アエ- は ay アイ と発音されている(前出)。aeekarkar アエエカラカラ のあとに、kus クシ と言っているが、これは語り手によれば「言葉一つ余分に入った」。

|  |    |             |
|--|----|-------------|
| アエハヨク クニ ナ<br>aeháyok kuni p           | 78 | よろいかぶとを     |
| サapte ワ イコレ ヤン.<br>sapte wa ikore yan. | 79 | 出して下さい。」    |
| イタカン アワ<br>itakan awa                  | 80 | 私が言うと       |
| イレス サボ<br>iresu sapo                   | 81 | 育ての姉は       |
| 5 スッ ケトウシ<br>[u]sut ketusi             | 82 | 昔の古いながもちを   |
| オニニニニ<br>onininini                     | 83 | ひきずり出して来て   |
| イシナ アトウ<br>isina atu                   | 84 | しばってあるひもを   |
| ウカエピタ.<br>ukaepita.                    | 85 | 何箇所もみなほどいた. |
| ケトウシ ウッソロ ワ<br>ketusi upsor wa         | 86 | ながもちの中から    |
| 10 カムイ ハヨクペ<br>kamuy hayokpe           | 87 | 立派なよろいかぶとが  |
| タン カムイマウ<br>tan kamuymaw               | 88 | 神風に         |

78) a-e-hayok kuni p ア・エ・ハヨク・クニ・ナ《私が・それで・武装する・べき・もの》つまり《武具》。語り手は「よろいかぶと」と訳した。ae アエ は ay アイ と発音されている(前出)。

82) sut スッ は《祖母》。語り手は「昔々の huci フチ(おばあさん)」と訳した。ketusi ケトウシ は、日常語ではごぎを折ってぬい合わせて作った背負い袋(citarpe kamasu チタッペ・カマス《ごぎ・かます》)だが、ユーカラで言う sut ketusi スッ・ケトウシ は着物が何十枚も入る大きな入れ物で、「トランク(=スーツケース)のようなもの」だと語り手はいう。

83) o-nini-nini オ・ニニ・ニニ《その尻・ひきずる・ひきずる》つまり、《ズルズルとひきずって引っぱってきた》ことをいう。

87) kamuy hayok-pe カムイ・ハヨク・ペ《神・武装する・もの》。kamuy カムイ《神》は、この場合《立派な》ことを表す。その前に聞こえる taan タアン は語り手によれば不要。

88) kamuy-maw カムイ・マウ は《神・風》。réra レラ(124, 289行目)《風》に対して、maw マウ は《気》《息吹》のような概念である。



|                               |    |                  |
|-------------------------------|----|------------------|
| カムイマウブンパ。<br>kamuy mawpunpa.  | 89 | 吹き上げられて浮き上がってきた。 |
| サナサプテ。<br>[u]sanasapte.       | 90 | それを姉は出してきた。      |
| カムイ コソント<br>kamuy kosonte     | 91 | 立派な小袖を           |
| アシクルカ サム<br>asikúrka sam      | 92 | 私は自分の体に合わせて      |
| エオピラサ。<br>5 eopirasa.         | 93 | 広げてみた。           |
| ウウォッカネ クツ<br>uwokkane kut     | 94 | 鎖状の金(かね)のベルトを    |
| エアラサイ ネノ<br>earsay neno       | 95 | 一回じめに            |
| アヤイコサイエ。<br>ayaykosaye.       | 96 | きちんとしめた。         |
| カムイ ランケ タム<br>kamuy ranke tam | 97 | 神から下されたような立派な刀を  |
| アクッポケチウ。<br>10 akutpokeciw.   | 98 | 腰にさした。           |
| カネ ポン カサ<br>káne pon kasa     | 99 | 金(かね)の小さな笠       |

89) kamuy-maw-punpa カムイ・マウ・ブンパ 《神・風(が)・持ち上げる》は《神風(神の息吹のようなそよ風)によって持ち上げられた》ことを言う。語り手は「kamuy-maw カムイマウ がホワーッとたちのぼって、それで kamuy hayokpe カムイ・ハヨクペ が浮いてきた」と説明している。

90) sa-na-sapte サ・ナ・サプテ 《前・の方へ・出す》。日常語で単に sanke サンケ(単), sapte サプテ(複)《出す》ということ、ユーカラではよく sanasapte サナ・サプテ という。これで4音節、さらに行の頭に母音 u をつけて、5音節にして歌う。

92-93) a-si-kurka-sam-e-o-pirasa ア・シ・クルカ・サム・エ・オ・ピラサ 《私は・自身・の上・側・それで・そこに・広げる》。語り手によれば、「たたんであるやつを広げて自分の体に広げて着た。」sam サム のあとに聞こえる音は、語り手によれば不要。

94) u-ok-kane kut ウ・オク・カネ・クツ 《互いに・かみ合っている・金属・帯》。

95) ear-say-ne-no エアラ・サイ・ネ・ノ 《一つの・連・として・(副詞語尾)》。

97) kamuy ranke tam カムイ・ランケ・タム 《神が・下ろした・刀》は、語り手によれば《切れ味のよい日本刀》。tam タム は emus エムシ と同じだという。

98) kut-pok-e-ciw クツ・ポク・エ・チウ 《帯・の下・に・さす》。刀を腰にさすことをいう。

|                               |     |          |
|-------------------------------|-----|----------|
| カサ ラントゥペフ<br>kasa rantupep    | 100 | 笠のたれひもを  |
| アヤイコユフ。<br>ayaykoyupu.        | 101 | ぎゅっとしめた。 |
| キナ トウイエ ホシ<br>kina tuye hos   | 102 | きやはんを    |
| アエイボキシリ<br>aeyáypokisir       | 103 | きちっと足に   |
| カラカラ カネ。<br>5 [u]karkar kane. | 104 | つけた。     |
| パクノ ネ コロ<br>[u]pakno ne kor   | 105 | それから     |
| ソイ ワ サンマ<br>[u]soy wa samma   | 106 | 外へ       |
| アノシライエ。<br>anosíraye.         | 107 | 出た。      |
| インカラン ルウエ<br>inkaran ruwe     | 108 | 見ると      |
| エネ オカ ヒ。<br>10 ene oka hi.    | 109 | 次のようだった。 |
| タネボ タツタフ<br>tanepo taptap     | 110 | 今初めて     |
| イレス チヤシ<br>iresu cási         | 111 | 育った城の    |
| ソイケ サマ<br>[u]soyke sama       | 112 | 外の方を     |

100) kasa カサ の前に聞こえる音は、語り手によれば不要。

102) kina-tuye-hos キナ・トウイエ・ホシ《草・を切る・脚絆》は、日常語では単に hos ホシ《脚絆》という。これを「はいておれば草もなんも切れてひっかからなくていい」と語り手は説明している。

103-104) a-e-yaypokisir-karkar kane ア・エ・ヤイボキシリ・カラカラ・カネ《私は・それで・自分の・下の方を・整え・て》つまり《足にはいて》。ae アエ が ay アイ と発音されている（前出）。

106-107) soy wa samma osiraye ソイ・ワ・サムマ・オシライエ はユーカラの表現で、《外へ出る》。日常語では esoyne soyne エソイネ・ソイネ《外へ・出る》という。an=a- アン=ア-（11行目を見よ）。

112) soyke sama ソイケ・サマ《その外・側》。

|                                |     |            |
|--------------------------------|-----|------------|
| アヤヤムキレ。<br>ayayámkire.         | 113 | 見て知った。     |
| カムイ カラ チャシ<br>kamuy kar cási   | 114 | 神に造られた城の   |
| ピリカ カトゥ<br>[u]pirka katu       | 115 | 美しいことを     |
| アノモンモモ。<br>anomómmomo.         | 116 | 私はつぶさに述べる。 |
| エキムン キロル<br>5 ekimun kiroru    | 117 | 山へ通じる立派な道は |
| コシンナ カネ<br>kosinna kane        | 118 | 別になっており    |
| エビスン キロル<br>episun kiroru      | 119 | 浜へ通じる立派な道は |
| シンナ カネ。<br>[u]sinna kane.      | 120 | 別になっている。   |
| エキムン キロル<br>ekimun kiroru      | 121 | 山への道       |
| キロル トウイカ<br>10 kiroru tuyka    | 122 | 道の上        |
| ル アン トイ カ ワ<br>ru an toy ka wa | 123 | 道のある土の上から  |
| ホプニ レラ<br>hopuni réra          | 124 | 立ちのぼる風     |
| マウ シリカシ<br>[u]maw sirkasi      | 125 | 空気の上に      |

113) yay-amkir-e ヤイ・アムキ・エ《自分に・見知る・させる》。

114) 録音ではこの前に [u]cási kamuy チャシ・カムイ《城・神》の1行が入っている。同じ語り手が1年半後にこのユーカラを語ったときは、別の表現の中でこの行が出てきて、「神様のような立派なチャシ」と説明している。しかし今回のものについては、この行は「一口余分に入った、いらぬ」と言っているの、テキストからは削除した。

117) kiroru キロル を語り手は《立派な道》と説明している。

118) ko-sinna コ・シンナ 《は・別になって》。直訳すると《に・別になって》。

|                                |     |                |
|--------------------------------|-----|----------------|
| アニエコッネ<br>aniékosne            | 126 | 私は軽く           |
| ブンパ カネ<br>[u]punpa kane        | 127 | のせられて          |
| エパコロ ベツポ<br>epakor petpo       | 128 | 我が家のそばの川       |
| ベツ トウラシ<br>[u]pet turasi       | 129 | 川にそって川上へ       |
| アラバアン フム コ<br>5 arpaan hum ko  | 130 | のぼっていく音が       |
| コトゥリミムセ.<br>koturimimse.       | 131 | ブーンと鳴り響く。      |
| シアンベツペニ<br>siampetpeni         | 132 | ずっと川上の方へ       |
| アヤイトウイエレ.<br>ayayuyere. ☆      | 133 | 私はまっすぐに飛んで行った。 |
| インカラン ルウェ<br>inkaran ruwe      | 134 | 見ると            |
| イネ ロク ベクシ<br>10 ine rok pe kus | 135 | なんとまあ          |
| ベツ イウオロ カシ<br>pet iwor kasi    | 136 | 川ぞいの景色が        |

126-127) 2行で1つの動詞。an-i-e-kosne-punpa アン・イ・エ・コシネ・ブンパ《(不定)人が・私を・そこに(=風の上に)・軽く・持ち上げた》。すなわち《私は風の上に軽く持ち上げられた》。an-=a- アン-=ア- (前出)。

128) epa-=a- エパ-=ア- (前出)。

130-131) ...hum ko / ko- ... フム・コ / コ-... 《...する音が...》は、ユーカラでは、「...すると...という音がする」のように具体的に起こる音を表現して臨場感を出すときの典型的な言い方。koturimimse コトゥリミムセは「ブーン」「ゴーツ」といった、飛行機のような音を表す擬音の表現。-se ... -セは《...という》。

132) si-am-pet-peni シ・アム・ペツ・ペニ《本当の・(名詞接頭辞, 前出)・川・上流》。あるいは sian- シアン-《本当の》か。

133) 録音では ayayuyruke アヤユイルケ《私はのぼって行った》と言っているが、語り手が ayayuyere アヤイトウイエレ《私はまっすぐ飛んで行った》と言うべきだと言って、訂正した(録音に入っていない語が書いてあることを ☆ 印で示す。以下同様)。yayuyere ヤイトウイエレは296行目の yaytuypare ヤイトウイパレと同義で、前者は単数形、後者は複数形である。

136) pet-iwor ベツ・イウオロ《川・そのあたりの地域》。つまり《川の流域》。この語り手は petiwor ペティウオロ と発音する。この語以外には ti ティという発音は出ず、t と i の連続はすべて ci チ と発音される。

|                                    |     |              |
|------------------------------------|-----|--------------|
| コマクナタラ。<br>komaknatara.            | 137 | 美しく開けている。    |
| アンラマス<br>[u]anramasu               | 138 | おもしろく        |
| アヌウェスイエ。<br>anuwésuye.             | 139 | 心楽しい。        |
| ペツ テクサム タ<br>[u]pet teksam ta      | 140 | 川端に          |
| アシアン アクス<br>5 as'an akusu          | 141 | 立ってみると       |
| ペツ オサン プトゥ<br>pet osan putu        | 142 | 川尻で          |
| プシコサンパ。<br>[u]puskosanpa.          | 143 | ピュッと何か物音がする。 |
| アホレパシ<br>arhorepasi                | 144 | ずっと沖の方から     |
| マク アン カツ コロ ペ<br>mak an kat kor pe | 145 | どんなものだけ      |
| エク フム コンナ<br>10 [u]ek hum konna    | 146 | 来る音が         |
| コトゥリミムセ。<br>koturimimse.           | 147 | ブーンと鳴り響く。    |

- 137) maknatara マクナタラ は《広々と開いている，あかあかと明るい》。川の流域の景色が広々と美しいことを言っていると思われる。頭の ko コ は，直訳すると《に》だが，ここでは，描写するときの《…は》。これがついてこの行は 5 音節に整っている。
- 138) uranramasu ウランラマス と聞こえるが，語り手が [u]anramasu ウ・アンラマス だという。日常語では aeramasu アエラマス。an-=a- アン- (前出)。なぜ e- エ- がないのか不明。
- 139) an-=a- ア- (前出)。
- 142) pet o-san putu ペツ・オ・サン・プトウ 《川が・そこに・流れ下る (またはそこから・流れ出る)・川口》。日常語では petputu ペツプトウ 《川尻》。
- 143) pus プシ は擬音の語根。《ヒョット。ピュット。プシュット》。
- 144) ar-horepasi アラ・ホレパシ 《全く・沖の方から》。
- 146-147) …hum konna / ko- … …フム・コンナ / コ-… 《…する音が…》は，前出 (130-131 行目) の …hum ko / ko- … …フム・コ / コ- と同じで，具体的な音を表現して臨場感を出すときの典型的な形である。130 行目では，arpaan アラパアン だけで 3 音節なので，hum ko フム・コ が使われて合計 5 音節となり，この 146 行目では，ek エク が 1 音節なので，hum konna フム・コンナ が使われて合計 4 音節，さらに，行の頭につけられた母音 u と合わせて 5 音節になっている。ek エク と hum フム が続けて ekum エクム と発音されている。

|  |     |             |
|--|-----|-------------|
| キ    ロク   アイネ<br>[u]ki rok ayne.           | 148 | そうしているうちに   |
| タン   テポ   タ<br>[u]tan tepo ta              | 149 | すぐ近くに       |
| イテクサマ   タ<br>iteksama ta                   | 150 | 私の脇に        |
| マク   アン   カツ   コロ   ペ<br>mak an kat kor pe | 151 | どんなものだから    |
| チシルトゥレ.<br>5 cisiruture.                   | 152 | だんだん近寄って来た。 |
| インカラシ   ルウエ<br>inkaran ruwe                | 153 | 見ると         |
| レタラ   コソソテ<br>retar kosonte                | 154 | 白い小袖を       |
| ヤイネナイネ<br>[u]yaynenayne                    | 155 | 上から下までそろいで  |
| ミ    メノコ<br>[u]mi menoko                   | 156 | 着た女が        |
| レタラ   チパヌッ<br>10 retar cipanup             | 157 | 白い頭かざりを     |
| エルリキクル<br>erurikikur                       | 158 | 髪をあげた上に     |
| ブンパ   カネ.<br>[u]punpa kane.                | 159 | 立ててかぶっている。  |

149) tan te-po ta タン・テ・ポ・タ «この・ここ・(指小辞)・に»。つまり «すぐ自分の目の前に»。

150) i-teksama ta イ・テクサマ・タ «私・の横・に»。

152) si-rutu シ・ルトウ は «自身を・押しずらす»。すなわち、ずって移動することを言う。ci- ... -re チ-... -レ の ci- チ- は中相接頭辞、-re -レ は使役接頭辞で、cisiruture チシルトゥレ 全体で、«ずり寄る»を意味する美文調の表現。

157) retar レタラ の r が次の語の c の前で t となり、retat cipanup レタッ・チパヌッ と発音されている。

158-159) e-ru-riki-kur-punpa エ・ル・リキ・クル・ブンパ «それで・髪・上げる・(影)・持ち上げる»、つまり «その鉢巻で髪を上を上げてしばるときに鉢巻を立ててしばっている»。kur クル はこの場合特に意味はない。ユーカラではときどきこのようにところで意味不明の kur クル が入る。これで音節数は整う。語り手の説明によれば、前は額のあたりに当て、後ろは後頭部の高いところでしばっている。後から登場する山の女神の描写 (188-189 行目) を参照。

|                                   |     |            |
|-----------------------------------|-----|------------|
| チカラカラ コンチ<br>cikarkar konci       | 160 | ししゅうした頭巾を  |
| アンバ カネ<br>[u]anpa kane            | 161 | 手に持って      |
| タン テポ タ<br>[u]tan tepo ta         | 162 | すぐ近くに      |
| イテクサマ タ<br>iteksama ta            | 163 | 私のそばに      |
| チシルトゥレ.<br>5 cisiruture.          | 164 | 寄って来た.     |
| アナク キ コロカ<br>anak ki korka        | 165 | しかし(私は)    |
| カバラ トイポ<br>[u]kapar toypo         | 166 | 土けむりをかぶって  |
| アヤイカクシテ<br>ayaykakuste            | 167 | 身をかくして     |
| アナン アワ<br>[u]anan awa             | 168 | いたところ      |
| ピリカ ペツポ<br>10 [u]pirka petpo      | 169 | 美しい川       |
| ペツ クル エトコ<br>pet kur etoko        | 170 | 川の水源地で     |
| コプシコサンパ.<br>kopuskosanpa.         | 171 | ピュッと物音がした. |
| イウォロソ カワ<br>iworso ka wa          | 172 | 山奥から       |
| マク アンカッ コロ ベ<br>mak an kat kor pe | 173 | どんなものだけ    |

166-167) kapar toy-po a-yay-ka-kus-te カバラ・トイ・ポ・ア・ヤイ・カ・クシ・テ  
 «薄い・土・(指小辞)・私は・自分・の上・通る・させる». つまり«私は自分の上に薄  
 い土を通す. すやわち «土けむりのようなもので身をかくす». 語り手は「土けむりみ  
 たいなものをかぶって, 雲の中にも入って」と説明している. kapar カバラ の r が  
 次の語の t の前で t ッ となり, kapat toypo カパツ・トイポ と発音されている.

170) pet kur etoko ペツ・クル・エトコ «川・影・の先端」は «川の水源地」を表すユ  
 ーカラの表現で5音節に整っている. 日常語では petetoko ペテトコ という.

|    |           |                  |     |             |
|----|-----------|------------------|-----|-------------|
|    | サン フム コンナ | [u]san hum konna | 174 | 出て来る音が      |
|    | コトゥリミムセ   | koturimimse      | 175 | ブーンと鳴り      |
|    | コケウロトツケ.  | kokewrototke.    | 176 | ガラガラと響く.    |
|    | キ ロク アイネ  | [u]ki rok ayne   | 177 | そうするうちに     |
| 5  | アラキ ルウエ   | [u]arki ruwe     | 178 | 来たのは        |
|    | エネ オカ ヒ.  | ene oka hi.      | 179 | 次のよう.       |
|    | クンネ コソソテ  | kunne kosonte    | 180 | 黒い小袖        |
|    | カムイ コソソテ  | kamuy kosonte    | 181 | 立派な小袖を      |
|    | ヤイネナイネ    | [u]yaynenayne    | 182 | 上から下までそろいで  |
| 10 | ミ メノコ     | [u]mi menoko     | 183 | 着た女が        |
|    | ケライ カムイ ネ | keray kamuy ne   | 184 | さも神らしく      |
|    | カムイ イボロ   | [u]kamuy ipor    | 185 | 顔つきもいかにも神の  |
|    | アンノイエカラ.  | [u]annoyekar.    | 186 | 顔つきらしい.     |
|    | クンネ チバヌフ  | kunne cipanup    | 187 | 黒い頭飾りを      |
| 15 | エルリキクル    | erurikikur       | 188 | 髪を上げた上に     |
|    | ライバ カネ.   | [u]raypa kane.   | 189 | ねかせてかぶっている. |

174) san サンは《上流から下流へ(山の方から海の方へ)向かって移動する(行く/来る)》ことを表す。逆方向の移動には arpa アラパ《行く》, ek エク《来る》が使われる(146行目参照)。

188-189) 前出の沖の方から来た女神の描写と対照的になっている。erurikikur-raypa エルリキクル・ライパは、《それで髪を上げる鉢巻を・ねかせてしばっている》。つまり前を前頭の上の方に当てて後ろを後頭部の下の方でしばっている。



|                                   |     |            |
|-----------------------------------|-----|------------|
| イヤイノマレ。<br>iyaynomare.            | 190 | 驚くべき様子だ。   |
| カムイ マタンプシ<br>kamuy matanpusi      | 191 | 立派な男の鉢巻きを  |
| チカラカラ マタンプシ<br>cikarkar matanpusi | 192 | ししゅうした鉢巻きを |
| アンバ カネ。<br>[u]anpa kane.          | 193 | 手に持っている。   |
| オピシネ エク メノコ<br>5 opisne ek menoko | 194 | 浜の方から来た女と  |
| オキムネ サン メノコ<br>okimne san menoko  | 195 | 山の方から来た女が  |
| ウサム タ ロシキ。<br>usam ta rosiki.     | 196 | 並んで立った。    |
| キ ロク アワ<br>[u]ki rok awa          | 197 | そうすると      |
| オピシネ エク メノコ<br>opisne ek menoko   | 198 | 浜の方から来た女が  |
| ウウエベケンヌ。<br>10 uwepekennu.        | 199 | たずねた。      |
| キム ウン イウオロソ<br>kim un iworso      | 200 | 「山の奥       |
| イウオロソ カ ワ<br>iworso ka wa         | 201 | 奥の方から      |
| エサン ワ タシ<br>esan wa tasi          | 202 | 来られて       |
| キム ウン イウオロソ<br>kim un iworso      | 203 | 山の奥        |
| イウオロソ カ タ<br>15 iworso ka ta      | 204 | 奥の方に       |

191) matanpusi マタンプシ 男の人の鉢巻。地方によっては女の人の鉢巻(頭飾り)をもこう呼ぶ。「男の人は山へでも行くときに髪をとめるために鉢巻をして、前で結んだ、ぬくくこしらう(=暖かく作る)」と語り手は言う。

194) opisne... オピシネ... の前にひとことつかえて、言い直している。ここからリズムがかわっている。

202) tasi タシ は強めの助詞。

|                              |     |         |
|------------------------------|-----|---------|
| ウロクテ カムイ<br>urokte kamuy ☆   | 205 | おわす神    |
| カムイ オルシベ<br>kamuy oruspe     | 206 | 神のことで   |
| アイラナク クニ プ<br>airának kuni p | 207 | いやなことは  |
| イサム ヘ キ ヤ?<br>isam he ki ya? | 208 | ありませんか? |
| イタク アクス<br>5 itak akusu      | 209 | と話す     |
| クンネ コソンテ<br>kunne kosonte    | 210 | 黒い小袖の   |
| カムイ メノコ<br>kamuy menoko      | 211 | 神なる女は   |
| エネ イタク ヒ.<br>ene itak hi.    | 212 | こう言った.  |
| キム ウンイウオロソ<br>kim un iworso  | 213 | 「山の奥    |
| イウオロソ カ タ<br>10 iworso ka ta | 214 | 奥の方に    |
| アイラナク クニ プ<br>airának kuni p | 215 | いやなことは  |
| カムイ オルシベ<br>kamuy oruspe     | 216 | 神のことには  |

- 205) 録音には入っていないが、後に語り手自身がテープを聴いて「本当は(この行が入る)」と言ったので、このテキストには書いた。u-rok-te kamuy ウ・ロク・テ・カムイ《互いを・坐る・させる・神》は《(そこに)住んでいる神》《(そこを)守っている神》。
- 207-208) 語り手によれば a-irának kuni p ア・イラナク・クニプ は airanak pe ア・イラナク・ペ とも言い、《いやなこと、困ったこと》。山の神の国に何か変わったことはないかと安否をたずねている。「お変わりありませんか」の挨拶のようなものである。isam he ki ya イサム・ヘ・キヤの h は落ちて isamekiya イサメキヤ と発音されている。
- 209) 散文ならば itak イタク の前に、sekor セコロ《と》が入るところであるが、省かれて、この行も前の行も 5 音節に整っている。
- 210) 散文ならば kosonte コソンテ の後に mi ミ《着ている》のような語が入るところであるが、省かれてこの行も次の行も 5 音節に整っている。
- 212) itak イタク《話す》と hi ヒ《こと》とは続けて itaki イタキ と発音されている。
- 213) 行の頭に聞こえる音は不要。

|                                |     |        |
|--------------------------------|-----|--------|
| イサム コロカイキ<br>isam korkayki     | 217 | ありませんが |
| アシヌマ アナク<br>asinuma anak       | 218 | 私は     |
| コタン シツチレ<br>Kotan sitcire      | 219 | 村焼き    |
| モシリ シツチレ<br>Mosir sitcire      | 220 | 国焼き    |
| サン カ トソソ<br>5 San ka [u]tososo | 221 | 棚荒らし   |
| ホノッカシ<br>[u]Honokkasi          | 222 | 腹の上    |
| オポイスヤンケ<br>Opoyuyanke          | 223 | 小鍋上げの  |
| シバセ カムイ<br>sípase kamuy        | 224 | 大神     |
| ネ ヤク エアシリ<br>ne yak easir      | 225 | でなければ  |
| アコロ クニヒ<br>10 akor kunihi      | 226 | 結婚しないの |

217) korkayki コロカイキ は korka コロカ《けれども》の美文調の表現。1音節多い語が使われてこの行は5音節に整っている。

218) asinuma アシヌマ は、不定人称単数の代名詞で、この場合、引用文中の《私》。この女神が“káni anak...”“カニ・アナク...”と言ったことを示す。

219) ここから 224 行目までは、実は少年のことを言っているのだということが、後の姉の説明でわかる。sir-ci-re シリ・チ・レ《自然界・焼ける・させる》すなわち、《地上も空もすべて焼き払ってしまう》。語り手は「空を飛んで歩くと、その下は稲光ですべて焼けてしまう」と説明した。後に育ての姉の神から聞かされるところによると、この主人公の父親がそのような神だという。その父の子だから、この少年のこともそのように呼んでいる。r は c の前で t となり、sir-cire シリ・チレは sitcire シツチレと発音される。

221) san ka tosoo サン・カ・トソソ《棚・の上・かきまわす》。語り手によれば「棚の上にあるものなんでもかたびし(=片端から)取って食うこと」。

222-223) hon-okkasi o-pon-su yanke ホン・オッカシ・オ・ポンス・ヤンケ《腹・の上・(そこ)に・小さい・鍋・上げる》。「鍋を上げる」とは鍋を火から下ろすことを言う。語り手は「たいて(=煮て)いるもの煮えるのも待ち遠しいからどんどんなんでもかまわず食べる。それで腹がふくれる。その腹の上へ鍋を上げてまた食べる」と説明した。

224) sípase シバセ の前に kamuy カムイ と言いかけたが、言い直している。sí-pase シ・パセ は《本当に・重い》つまり《非常に尊い》。

225-226) ne yak easir a-kor ネ・ヤク・エアシリ・ア・コロ《である・と・それで初めて・私は・持つ》は、《でなければ結婚しない》。

|  |     |                 |
|--|-----|-----------------|
| ネ   ワ   クス<br>[u]ne wa kusu                | 227 | ですから            |
| タナン ト オクタ<br>tanan to or ta                | 228 | 今日              |
| エキムネ   ノイネ<br>ekimne noyne                 | 229 | 山へおいでになるらしく     |
| インカラ   ン   クス<br>inkaran wa kusu           | 230 | 見えましたので         |
| アコレ   クニ   マタンプシ<br>5 akoré kuni matanpusi | 231 | さし上げる鉢巻を        |
| アコロ   ワ   サナン.<br>akor wa sánan.           | 232 | 持って山から下って来ました。」 |
| ルウェ   イタク   ネ   ナ<br>ruwe itak ne na       | 233 | というように          |
| イタク   ルウェ   ネ.<br>itak ruwe ne.            | 234 | 話した.            |
| ホレバシ   エタ   メノコ<br>horepasi ek menoko      | 235 | 沖から来た女          |
| レタラ   コソソテ<br>10 retar kosonte             | 236 | 白い小袖(の女)は       |
| アシヌマ   カ<br>asinuma ka                     | 237 | 「私も             |
| レフ   ウン   イウオロソ<br>rep un iworso           | 238 | 遥かな沖            |

227) 語り手によれば「aramu wa kusu アラム・ワ・クス と同じ」。《私は(そう)思ったから》。

228) tanan to or ta タナン・ト・オロ・タ《この・日・の所・で》は韻文で tanto タン ト《今日》の代わりに使われる言い方。or ta オロタ は otta オッタ と発音される [72 行目を参照]。

230) inkar インカラ《見る》は、この場合、眼前にはない遠方のことや未来のことが神の目で見えたことを言っている。wa ワ が前の n ンのあとで ma マ と発音されている。

231) a-koré kuni matanpusi ア・コレ・クニ・マタンプシ は《私が(彼に)・与える・べき・鉢巻》。女が夫になる人に鉢巻や頭巾のししゅうをしたものを結納のようにあげたという習慣があったのか、たずねたところ、語り手はそのような話は聞いていない、と言う。

233) 次の行で言い直しているの、言いまちがいかと思うが、語り手が何も言わなかったの、このままにしておく。

238) 舌がもつれたらしく、違う発音に聞こえるが、語り手が、これは「言いちがいで rep un レフ・ウン《沖の》が正しいと言う。

|                                   |     |                  |
|-----------------------------------|-----|------------------|
| イウオロソ カ ワ<br>iworso ka wa         | 239 | 沖の方から            |
| カムイ アネ ワ<br>kamuy ane wa          | 240 | 来た神である私も         |
| コタン シツチレ<br>Kotan sitcire         | 241 | 村焼き              |
| モシリ シツチレ<br>Mosir sitcire         | 242 | 国焼き              |
| 5 サン カ トソソ<br>San ka [u]tososo    | 243 | 棚荒らし             |
| ホノッカシ<br>[u]Honokkasi             | 244 | 腹の上              |
| オポイスヤンケ<br>Opoyuyanke             | 245 | 小鍋上げの            |
| カムイ ネ アンクル<br>kamuy ne an kur     | 246 | 神になる人と           |
| アコロ クシ ネ ワ<br>akor kus ne wa      | 247 | 結婚しますので          |
| 10 アコレ クニ コンチ<br>akoré kuni konci | 248 | さし上げる頭巾を         |
| アコロ ワ ヤナン.<br>akor wa yánan.      | 249 | 持って海から上がって来ました。」 |
| セコロ オカイ ベ<br>sekor okay pe        | 250 | ということを           |
| ウタイエ ヒケ<br>utaye hike             | 251 | 言うと              |
| イルシカ ケウトウム<br>iruska kewtum       | 252 | 私は腹立たしい気持ちか      |

240) 直訳すると《私は神であつて》。237行目からここまで《…神である私も》という内容を表す表現になる。

246) 「神様の子だから、神様と同じになる人だから」と語り手は説明した。

249) yan ヤン《海や川から》陸に上がる、陸に着く。前出の山から来た女神は san サン《山手から海手へ行く/来る》を使い(232行目)、沖から来た女神が yan ヤン を使っている。

251) utaye ウタイエ《言う》はユーカラでよく出る形で、これでこの行が5音節となり、リズムが整う。日常語では ye イエ という。

252-253) iruska kewtum a-yay-kor-pa-re イルシカ・ケウトウム・ア・ヤイ・コロ・パ・レ《腹立たしい気持・私は・自分・持つ・(複数)・させる》は自分が腹立たしく思ったことを表現する韻文の常套句で、5音節×2行に整っている。日常語では iruskaan イルシカアンという。

|                             |     |              |
|-----------------------------|-----|--------------|
| アヤイコロパレ.<br>ayaykorpore.    | 253 | 起こった.        |
| マカナク ナムネ<br>makanak namne   | 254 | 自分はいったいどのような |
| モトコロ カトウ<br>motokor katu    | 255 | 素性をもつ        |
| オカ ア クニ ノ<br>oka a kuni p   | 256 | ものであった       |
| 5 アネ ワ タツネ<br>ane wa tapne  | 257 | がためにこのように    |
| ウサイネ カ タフ<br>usayne ka tap  | 258 | いろいろと        |
| ウエン メノコ<br>[u]wen menoko    | 259 | 悪い女          |
| ウトラ オロケヘ<br>utar orkehe     | 260 | どもが          |
| チコソモクル<br>cikosomokur       | 261 | 私に対して        |
| コヤイカタヌ<br>10 koyaykatanu    | 262 | 無礼な          |
| イエカラカラ クシ<br>iekarakar kus  | 263 | ことを          |
| ハウコロ ハウエ<br>[u]hawkor hawe  | 264 | しゃべっているの     |
| オカ ヤ セコロ<br>oka ya sekor    | 265 | だろうかと        |
| ヤイスアン ヒケ<br>yaynuan hike    | 266 | 思うと          |
| イルシカ ケウトウム<br>iruska kewtum | 267 | 腹立たしい気持ち     |

254-257) 「どういうことから自分が生まれまもので」と語り手は説明した。

261-263) ci-... i-ekarkar チ-... イ・エカラカラ《私に...する》. kosomokur コソモクルの kur クル, koyaykatanu コヤイカタヌの ko- コ-, は、歌うために入ったものらしい。ko-somo-yaykatanu コ・ソモ・ヤイカタヌは《に・(否定)・行儀よくする》つまり《(私)に対して行儀よくしない、無礼をする》。語り手は「人をばかにしたようなことを言う」と訳した。二人の女神が言ったことに対して、少年が「おれを軽んじて悪口を言った」と憤慨しているのである。金成-金田『ユーカラ集 2』には ekosomoyaikatanu エコソモヤイカタヌがあり、《おそれはばかりもせず》と訳されている。

|                            |     |            |
|----------------------------|-----|------------|
| アヤイコロバレ。<br>ayaykorpore.   | 268 | 起こった。      |
| アナク キ コロカ<br>anak ki korka | 269 | しかし        |
| シオッカヨラム<br>siokkayoram     | 270 | 自分は男だと     |
| アヤイコロバレ。<br>5 ayaykorpore. | 271 | 思っておさえた。   |
| アッスイ アヌ ペ<br>arsuy anu pe  | 272 | ただ一度聞いたことに |
| アルシカ キ ワ<br>aruska ki wa   | 273 | 腹を立てて      |
| ウエン メノコ<br>[u]wen menoko   | 274 | 悪い女        |
| ウトラ オロケへ<br>utar orkehe    | 275 | どもに        |
| コタムビウキレ<br>10 kotampiwkire | 276 | 刀を抜いて切りつけた |
| アキ ワ ネ ヤク<br>aki wa ne yak | 277 | とあっては      |
| セモッカヨラム<br>semokkayoram    | 278 | 男らしくないと    |
| アイコロバレ ワ<br>aikórpore wa   | 279 | 思われるので     |

270-271) si-okkayo-ram a-yay-korpore シ・オッカヨ・ラム・ア・ヤイ・コロバレ《本当の・男(の)・心(を)・私は・自分に・与えた》。つまり《一人前の立派な男なのだからと思って、怒りを押さえた》。語り手は「自分は男だ、女の言うこと一度聞いたからといって腹立ったようなまねはできないと考えて忍耐する」と説明した。si シ と次の o オ の間に y が入って、siyokkayoram シヨッカヨラム と発音されている。

272) anu pe=anu p アヌ・ペ=アヌ・プ。日常語では、母音の後では pe ペ は p プ と発音されるが、韻文ではリズムの関係でよく母音の後でも pe が出てくる。この行はこれで5音節に整う。

273) a-ruska wa ア・ルシカ・ワ《私は・(そのことに)腹を立てて》だが、ki キ《する》の1音節が補われてこの行は5音節に整っている。

278-279) semokkayoram セモッカヨラム と言おうとしたが、口がまわらなくて、その前に1行余分に入っている。その次に makanak he ta ne a! マカナク・ヘ・タ・ネ・ア・!《何だ、どうしたんだ》と言っているのは、自分の言いそこないのことを言っている。この2行を「男らしくしないと思われるから」「男らしくしようと思ってがまんした」と語り手は説明した。

|                                |     |         |
|--------------------------------|-----|---------|
| チキタ ヘタク<br>cikita hetak        | 280 | さあ早く    |
| イレス サボ<br>iresu sapo           | 281 | 育ての姉に   |
| アコウエペケンヌ ワ<br>akowépekennu wa  | 282 | たずねてから  |
| オラ エアシリ<br>ora easir           | 283 | そのあとで   |
| 5 アキ ワ クニ ノ<br>aki wa kuni p   | 284 | すべきことが  |
| ロルンベ ネ ワ<br>rorunpe ne wa      | 285 | たたかいであり |
| トゥムンチ ネ ワ<br>tumunci ne wa     | 286 | いくさであると |
| ヤイヌアン クス<br>yaynuan kusu       | 287 | 思ったから   |
| ル アン トイ カ ワ<br>ru an toy ka wa | 288 | 地面から    |
| 10 ホプニ レラ<br>hopuni réra       | 289 | 吹き上げた風  |
| マウ シリカシ<br>[u]maw sirkasi      | 290 | 空気の上に   |
| アイヤイコシネクル<br>aiyákosnekur      | 291 | 軽々と     |
| ブンバ カネ<br>[u]punpa kane        | 292 | のせられて   |

- 280) 「さあさあそれよりも早く」と語り手は訳した。cikita hetan チキタ・ヘタン と言っている。語末の k は歌っているとき、ときどきこのように n と発音される。
- 282-283) a-ko-uwepekennu ア・コ・ウエペケンヌ《私が・(彼女)に・事情をたずねる》。この2行を「きいてからその言い方によって」と語り手は説明した。
- 284-286) 倒置になっている。《いくさをするとしても姉にわけをきいてからすべきだ》の意。語り手によれば rorunpe ロルンペ も tumunci トウムンチ も共に「いくさ」。同義の語を並行的に使った対句である。
- 288-289) ru-an toy-ka wa hopuni réra ル・アン・トイ・カ・ワ・ホプニ《道・ある・地・の上・から・立ちのぼった》を語り手は「じべたから吹き上がった」と訳した。
- 291-292) a-e-yay-kosne-kur-punpa ア・エ・ヤイ・コシネ・クル・ブンバ《私は・そこに・自分を・軽く・(影)・持ち上げた》。126-127 行目と同じことを少しだけ違った言い方で言っている。kur クル はこの場合特に意味はなく、語り手によれば「ユーカラだから余分に入った」ものである。ae アエ が ay アイ と発音されている(前出)。



|                                |     |              |
|--------------------------------|-----|--------------|
| ヘトボ ホロカ<br>hetopo horka        | 293 | またもと来た道を     |
| アコロ ア チャシ<br>akor a cási       | 294 | 住んでいた城に      |
| コパッケ サマ<br>kopakke sama☆       | 295 | 向かって         |
| アヤイトウイバレ.<br>ayaytuypare.      | 296 | まっすぐに飛んで行った. |
| サンアン アイネ<br>5 [u]san'an ayne   | 297 | ずうっと下って行くと   |
| イウオロソ カ タ<br>iworso ka ta      | 298 | 野原で          |
| シモマンベ<br>[u]símomanpe          | 299 | 大きな牡鹿が       |
| イベ シリ コンナ<br>ipe sir konna     | 300 | 草を食べている様子が   |
| コモイナタラ.<br>komoynatara.        | 301 | のんびりとして見えた.  |
| トウイマ ウク ペ<br>10 [u]tuyma uk pe | 302 | 遠くの草を食べるときは  |
| コキラウシカ<br>kokirawsika          | 303 | 角が後ろの        |
| オマレ カネ<br>omare kane           | 304 | 方に行き         |

- 295) kopakke sama コパッケ・サマ《の方・の側》=kopak コパク 《...に向かって》.  
 296) a-yay-tuypa-re ア・ヤイ・トウイパ・レ《私は・自分を・切る(複)・させる》は  
 《まっすぐに飛んで行く》。語り手は「一直線に飛んで行った」と訳した。ayaytuypere  
 アヤイトウイエレ(単数形)も使われる。  
 299) si-momanpe シ・モマンベ《大きな・雄鹿》。「姉にシカをとって来てあげる」と  
 言った約束を、今から果たすわけである。  
 300-301) ipe sir konna komoynatara イベ・シリ・コンナ・コモイナタラ《ものを食べ  
 る・様子・が・のんびりしている》。語り手は「静かに草を食べていた」と訳した。  
 302-304) tuyma uk-pe ko-kiraw-si-ka-omare トウイマ・ウク・ペ・コ・キラウ・シ・  
 カ・オマレ《遠く・取る・もの・に対して・角(を)・自身・の上・にのせる》つまり  
 《遠くの草を食べるときは角が後ろの方に行く》。

|    |             |                  |     |                |
|----|-------------|------------------|-----|----------------|
|    | ハンケ ウッ ベ    | [u]hanke uk pe   | 305 | 近くの草を食べるときは    |
|    | コキラウリキ      | kokirawriki      | 306 | 角が上に           |
|    | ロシキ カネ      | [u]roski kane    | 307 | 立つ             |
|    | シリキ ヒ タ     | [u]siriki hi ta  | 308 | 様子だが           |
| 5  | イハイタ クル パテク | ihayta kur patek | 309 | 鹿を獲ることのへたな人ばかり |
|    | イエハンケレ      | iehankere        | 310 | 近くで獲るという       |
|    | ハワシ ヒケ      | [u]hawas hike    | 311 | 話だが            |
|    | ラム チクニ      | [u]ram cikuni    | 312 | 低い木ならば         |
|    | ハッキタイケ      | [u]hapkitayke    | 313 | 梢のてっぺん         |
| 10 | リ チクニ       | [u]ri cikuni     | 314 | 高い木ならば         |
|    | スットム オルケ    | [u]suptom orke   | 315 | 幹の中程くらいのところに   |
|    | アアイコヌカラ     | aaykonukar       | 316 | 私は矢を置いてねらって    |

305-307) hanke uk-pe ko-kiraw-roski ハンケ・ウッ・ベ・コ・キラウ・リキ・ロシキ  
 «近く・取る・もの・に対して・角を・上の方・立てる» つまり «近くの草を食べるときは角が高く立つ». 語り手は、302-307行を「遠くにあるもの取るときは角が後ろの方にいき、近くにあるもの取るときは角が上に立つ」と訳した.

306) kokirawroiki コキラウロイキ と聞こえるが語り手が kokirawriki コキラウリキだと言った.

309-311) i-hayta kur イ・ハイタ・クル «もの・が足りない・人». ここから3行を語り手は「よく鹿獲れない者ばかりそばさ行ってからでなけりゃ獲れないというんだが」と訳した.

310) iyeihankere イイエハンケレ と聞こえるが iehankere イエハンケレ (発音上 yが入って iehankere イイエハンケレ) である. 歌っていて e エ をのぼしたときによく ei エイ となる.

312-315) ram cikuni...suptomorke ラム・チクニ...スットモッケ. あまり高くも低くもない位置を表す韻文の常套句である.

|                                |     |                |
|--------------------------------|-----|----------------|
| アシリコチヨッチャ.<br>asirkocotca.     | 317 | ヒョウと射た.        |
| キ ロク アワ<br>[u]ki rok awa       | 318 | すると            |
| イエホシ ワ<br>iehosi wa            | 319 | 私の方へ来ずに        |
| ヤイエモシカラカラ.<br>yayemoskarkar.   | 320 | 向こうの方で倒れた.     |
| アラパアン ヒネ<br>5 arpaan hīne      | 321 | 私が行って          |
| アヌカラ ルウエ<br>anukár ruwe        | 322 | 見ると            |
| エネ オカ ヒ.<br>ene oka hi.        | 323 | こうだった.         |
| ネフ パハウエ<br>[u]nep páhawe       | 324 | 何か悪口でも         |
| イコヌ ロコカイ ベ<br>ikonu rókokay pe | 325 | 私が言ったのを聞いたみたいに |
| イコオトウイマ<br>10 ikootuyma        | 326 | 私を遠くから         |
| シッケルル.<br>[u]sikkeruru.        | 327 | 目をむいてにらんでいる.   |
| アルシカ クス<br>aruska kusu         | 328 | 私は腹が立ったから      |

319) i-ehosi wa イ・エホシ・ワ «私・からはずれ・て». ここから2行を語り手は「自分の方さ(=方へ)来ないで向こうの方でひっくりかえった(死ぬのに)」と訳した.

321) arpa an アラパ・アン が, arpa ayan アラパ・アヤン のように聞こえるのは, 語り手によれば「ユカル(=ユーカラ)でふしつけて言うから」.

322) anukár アヌカラ の r が次の r の前で n になり, anukán ruwe アヌカン・ルウエと発音されている.

324) páhaw パハウ は «うわさ», páhawe パハウエ は «そのうわさ」.

325) i-ko-nu イ・コ・ヌ «私・に・聞く». rókokay ロコカイ は aan アアン の複数形, «後の状況から察するに...したのだな」.

326-327) i-ko-o-tuyma-sik-keruru イ・コ・オ・トウイマ・シク・ケルル «私・に・それで・遠くから・目を・むいてにらんでいる». 324行目からの6行を語り手は「なにごとか自分が悪口言ったことを聞いたわけでもあるまいし, 自分のことを憎みたいに白目出してにらんでいる」と訳した. 「白目を出して」に当たる表現はここには出ていないが, 同じユーカラを1年半後に語ったとき(「ユーカラ 2」未刊)には, この部分に「白い目を出して」の句が入っている.

|                                |     |              |
|--------------------------------|-----|--------------|
| シモマンベ<br>[u]símomanpe          | 429 | 大きな牡鹿の       |
| パンチキリ<br>[u]pancikiri          | 430 | 後足をつかんで      |
| アネシカリ<br>anesikari             | 431 | ふりまわし        |
| ルウエ チクニ<br>ruwe cikuni         | 432 | 太い木に         |
| アエベカレ.<br>5 aepékare. ☆        | 433 | ぶつけた.        |
| アネ チクニ<br>áne cikuni           | 434 | 細い木には        |
| アエハイタレ.<br>aeháytare. ☆        | 435 | ぶつけない.       |
| アエキク フム コンナ<br>aekík hum konna | 436 | ぶつかる音が       |
| コリムナタラ.<br>korimnatara.        | 437 | ドシンドシンと響く.   |
| アヌカラ アイケ<br>10 anukár ayke     | 438 | 見ると          |
| チコイキヤ カムイ<br>cikoykip kamuy ☆  | 439 | けものというものは    |
| ランマ カトウ<br>[u]ranma katu       | 440 | いつも          |
| チエソネレ.<br>ciesonere.           | 441 | こういうものだと言った. |

332-336) 録音当時歌った形では、ruwe cikuni / áne cikuni / aekík hum konna... ルウエ・チクニ / アネ・チクニ / アエキク・フム・コンナ... 《太い木と / 細い木に / 私がぶつける音が...》であった。後に語り手が2行を補足した。同じニューカラの1年半後の語りでは補足された本文と同様にくわしくなっている。a-epeka-re ア・エペカレは《私が・そこに当たる・させる》つまり《私はそこにぶつける》。a-ehayta-re ア・エハイタレは《私が・そこに不足する・させる》つまり《私はそこにとどかせない》。ae アエが ay アイと発音されている(前出)。

336 a-e-kik ア・エ・キク《私が・それで・打つ》つまり《私はそれをぶつける》。ae アエが ay アイと発音されている(前出)。

339-341) cikoykip kamuy チコイキヤ・カムイ《けもの・神》=《けもの》の1行を、語り手が後に必要だと言って補った。

341) ciesonere チエソネレの ci- チ- は中相の接頭辞。使役の接尾語 -re との組み合わせで使われる(前出)。この沙流地方の日常語では母音の前で ci- チ- の i イが落ちて Césarere チエソレレとなるが、ふしをつけて歌うときには母音の前でも ci チの形が出る。e- エ- は《それで》、sóné ソネは《本当で(ある)》、したがって、ciesonere チエソネレは《それで本当とされた》。語り手は「けだもん(=獣)というもののいつも死んでもこういうものなんだなあということがわかった」と訳した。

|                                      |     |                |
|--------------------------------------|-----|----------------|
| パッノ ネ コロ<br>[u]pakno ne kor          | 342 | それから           |
| ラムネ ヒ ネノ アン ワ<br>ramne hi néno an wa | 343 | そのまま           |
| アエタツカ コンナ<br>aetápka konna ☆         | 344 | 肩にかついで歩くと      |
| ラチンラチン.<br>racinracin. ☆             | 345 | ブランブランする。      |
| アセ ワ サナン.<br>5 ase wa sánan.         | 346 | 私は背負って下っていった。  |
| キ コロ<br>[u]ki kor                    | 347 | そうすると          |
| ネア マタンプシ<br>néa matanpusi            | 348 | あの鉢巻と          |
| ネア コンチ<br>[u]néa konci               | 349 | あの頭巾が          |
| アシケ ワ カリカリ.<br>asiké wa karikari.    | 350 | 私の背負い荷にひっかかった。 |
| イルシカアン コロ<br>10 iruskaan kor         | 351 | 私は腹が立って        |
| アウイナ キ ワ<br>auyna ki wa              | 352 | それを取って         |
| トウイマ イウオロ<br>[u]tuyma iworo          | 353 | ずうっと遠くの方       |
| イウオロソ カシ<br>iworso kasi              | 354 | 遠くの方へ          |

343) an の n のあとで次の wa の w が m になり, an wa アン・ワ《あつて》は amma アムマ と発音されている。このごろはこの音素交替もあまり聞かれなくなったが、二、三十年前は普通であり、この語り手も常にこの発音をしていた。

344-345) 録音当時は、343 行にすぐ 346 行がつづいて《そのまま背負って山を下って行った》と言っているが、後に語り手が、2 行を補足し、「肩さかけてかついで行くとブランブランする」と訳した。

348-349) néa ネア は《前に話題になった》《前述の》。海と山から来た女たちが贈り物として持ってきたあの(鉢巻と頭巾)。

350) 語り手は「背負って肩からぶら下がっているとさひっかかった。後ろから女ついて来ているのわからないから。その女たちが後ろからその鹿にひっかけた」と説明している。この行だけふしをつけないで力強い語調で言っている。それが、突然へんなことが起こったという語り手の思いを伝えるのに効果をあげている。

|                               |     |                |
|-------------------------------|-----|----------------|
| アエコニスイェ.<br>aekónisuye.       | 355 | ほうり投げた.        |
| イキアン キ コロ<br>ikian ki kor     | 356 | そうして           |
| ボンノ サナン コロ<br>ponno sánan kor | 357 | 少し下ると          |
| カンナ ルイノ<br>kanna ruyno        | 358 | またもや           |
| アシケ エオコク.<br>5 asiké eokok.   | 359 | 私の背負い荷にひっかかった. |
| イルシカアン コロ<br>iruskaan kor     | 360 | 私は腹を立てながら      |
| サナン カトウ<br>sánan katu         | 361 | 下って行った様子を      |
| アノモンモモ.<br>anomómomo.         | 362 | 私はつぶさに述べる.     |
| サナン アイネ<br>[u]sánan ayne      | 363 | 下って行って         |
| アコロ ア チャシ<br>10 akor a cási   | 364 | もといた城          |
| チャシ ソイ タ<br>[u]cási soy ta    | 365 | 城の門口で          |
| アコロ モマンベ<br>akor momanpe      | 366 | 私の牡鹿を          |
| タン リッナ ワ<br>[u]tan rikna wa   | 367 | こう、上から         |

355) a-e-ko-ni-suye ア・エ・コ・ニ・スイェ《私が・それで・そこへ・木・振る》、つまり《私はそれをそこへ(=遠くの方へ)放り投げた》. ae アエ が ay アイ と発音されている(前出). 353行目からの3行を語り手は「ずっと向こうの方へヤッと投げた」と訳した.

358-359) この2行も、ふしをつけないで力強く言い、350行目と同様の効果をあげている.

366) 歌うふしのために、akor アコロ の r のあとに o がつけられて akoro アコロ と発音されている。(13行目参照). akor アコロ が akoro アコロ と発音されている. 歌うとき音節末の r はしばしば o の母音をつけて発音される.

367-368) tan rik-na wa a-eyapkir タン・リッ・ナ・ワ・ア・エヤッキリ《この・上の・方・から・私は・投げた》. 語り手は「こう上からヤッとぶつける」と訳した. 韻文ではよく tan タン《この》が使われる. それでこの行は5音節に整っている. ae アエ が ay アイ と発音されている(前出).

|                                |     |               |
|--------------------------------|-----|---------------|
| アエヤッキリ フムコ<br>aeyápkir humko   | 368 | 投げつけると        |
| コリムナタラ、<br>korimnatara.        | 369 | ドシンドシンと鳴り響いた。 |
| アフナン ヒネ<br>ahunan híne         | 370 | 私は城に入って       |
| アベエトク ネ ヒ<br>apeetok ne hi     | 371 | 横座の所の         |
| オマン イヌンベ<br>5 oman inunpe      | 372 | 炉ぶちを          |
| アコウレユブ。<br>akóureyupu.         | 373 | 足でぎゅっとつかんでいた。 |
| チャシ コトロ<br>[u]cási kotor       | 374 | 天井の方を         |
| アコノッテスス。<br>akonóttesusu.      | 375 | 見上げていた。       |
| インカラン カネ<br>inkaran kane       | 376 | 見ていて          |
| アコロ ウェン プリ<br>10 akor wen puri | 377 | 私の腹立ちで        |
| アエナシクルカシ<br>aenáncurkasi       | 378 | 私の顔の上に        |
| チホプニレ。<br>cihopunire.          | 379 | 青すじが立っている。    |

368-369) . . . hum ko ko- . . . フム・コ・コ- . . . 130-131 行目の注を参照。

370) ahunan hike アフナン・ヒケ《私の中にはいると》と言ってから, ahunan híne アフナン・ヒネ《私が城に入って》と言い直している。

371) apeetok ne hi アペエトク・ネ・ヒ《横座・である・所》。ape-etok アペ・エトク《火・の先》は, 炉の東側の座。西にある出入口から入って奥の座で, 北海道その他の日本語で「横座」と呼ばれる。

372) oman inunpe オマン・イヌンベ《行く・炉ぶち》は, 炉ぶち(日常語で inunpe イヌンベ)を表すユーカラの表現。これで5音節に整っている。

373) ちょっと舌がもつれたが, 語り手によれば a-ko-ure-yupu ア・コ・ウレ・ユブ《私は・それに・足を・締める》。語り手は「足でひっかけてギューツとつかんでいる」と訳した。

374-375) cási kotor チャシ・コトロ《城・の内面》は《天井》。通常の家 cise チセでは cisekotor チセコトロ と言う。not-tesusu ノッ・テスス《あごを・そらしている》は, 顔だけ仰向していることをいう。cási kotor a-ko-nottesusu チャシ・コトロ・ア・コ・ノッテススを語り手は「天井をにらんでいた」と訳した。

377-379) wen puri ウェン・プリは直訳すると《悪い・行状》だが, ここでは立腹をさしている。a-e-nan-kurkasi ci-hopuni-re ア・エ・ナン・クルカシ・チ・ホプニ・レ《私は・それで・顔・の表面(に)・立った》つまり《立腹が顔に現われた》。ci- チ- は中相の接頭辞で, 使役接尾辞の -re -レ との組み合わせで使われる(前出)。hopuni ホプニは《立つ》。この3行を語り手は「腹立ったもんだから腹立った顔ものすごい, すじが立った」と説明した。ae アエが ay アイと発音されている(前出)。

|                            |     |          |
|----------------------------|-----|----------|
| アナン アワ<br>[u]ánan awa      | 380 | そうしていると  |
| カムイ アサハ<br>kamuy asaha     | 381 | 神のような我が姉 |
| イレス サボ<br>iresu sapo       | 382 | 育ての姉が    |
| ホブンバ ヒネ<br>hopunpa híne    | 383 | 立ち上がって   |
| カムイ ケトウシ<br>5 kamuy ketusi | 384 | 立派なながもちを |
| サナサンケ<br>[u]sanasanke      | 385 | 出してきて    |
| カムイ ハヨクベ<br>kamuy hayokpe  | 386 | 立派なよろい   |
| ハヨクベ ウマソロ<br>hayokpe upsor | 387 | よろいを     |
| オシキル.<br>[e]osikiru.       | 388 | 身につけた。   |
| イヤイノマレ.<br>10 iyaynomare.  | 389 | 驚いたものだ。  |
| ハヨクベ クルカ<br>hayokpe kurka  | 390 | よろいの上    |
| コソンテ クルカ<br>kosonte kurka  | 391 | 小袖の上は    |

384) 立派なながもち、とても立派なことを表現するのに、よく kamuy カムイ《神》の語が使われる。ketusi ケトウシ については 82 行目の注を見よ。

385) 後日の語り手の説明によると、sanasanke サナサンケ の後に isina atu / ukaepita / ketusi upsor / tapan kamuymaw / cisanasanke / kamuymaw sirka / kamuy hayokpe / ciokotekar イシナ・アトゥ / ウカエピタ / ケトウシ・ウマソロ / タパン・カムイ・マウ / チサナ・サンケ / カムイ・マウ・シッカ / カムイ・ハヨクベ / チオコテカラ 《しばってある紐を / みんなほどいた / ながもちの中 / 神風が / 出て来た / 神風の上に / 立派なよろいが / つられて浮いてきた》というところだ、とのこと。

388) [e]osikiru エ・オシキル の [e] は、「ユカル (ユーカラ) なのでふしに合わせて言葉が余分に入った」と語り手が後に説明している。hayokpe upsor o-si-kiru ハヨクベ・ウマソロ・オ・シ・キル 《よろい・の中・に・自身を・向ける》つまり《彼女は)よろいを身につけた》。



|                                |     |                 |
|--------------------------------|-----|-----------------|
| シカリ チュヅ ノカ<br>sikari cup noka  | 392 | 満月の形            |
| ニン チュヅ ノカ<br>[u]nin cup noka   | 393 | 三日月の形           |
| エアルワト<br>earuwato              | 394 | ばかりの模様に満ちており    |
| マシキン ヘ タフ<br>[u]maskin he tap  | 395 | なおいっそう          |
| トウ イメル クル<br>5 tu imeru kur    | 396 | 二すじも三すじもの光      |
| レ イメル クル<br>re imeru kur       | 397 | たくさんの光が         |
| チセ カン コトロ<br>cise kan kotor    | 398 | 天井に             |
| エウエシカイエ<br>ewesikaye           | 399 | 反射してキラキラときらめく   |
| セムコラチ.<br>[u]semkoraci.        | 400 | ようであった.         |
| 10 パクノ ネ コロ<br>[u]pakno ne kor | 401 | それから            |
| カムイ ランケ タム<br>kamuy ranke tam  | 402 | 神から下されたような立派な刀を |
| ウクツポケチウ<br>[u]ukutpokeciw      | 403 | 腰にさし            |
| トゥムンチ クワ<br>tumunci kuwa       | 404 | いくさの杖           |
| チノイエ クワ<br>cinoye kuwa         | 405 | ねじれた杖を          |

392-394) 16-18 行目と同じ表現.

396-399) imeru イメル は通常《稲光》をいう. tu ... re ... トウ... レ... 《二つの... 三つの...》は, 《二つも三つもの》《たくさんの》を意味する対句表現. kur クル《影》は特に意味はなく, ユーカラでよく使われる語(前出). cise kan kotor チセ・カン・コトロ《家・上・面》は屋根の内側の面で, 今の家屋で言えば《天井》にあたる. 《二つのきらめき / 三つのきらめきが / 天井 / (そこ) で互いに折れる》. 語り手は「鏡をいくつも互いに向けたときのように反射してチカチカとそこらじゅう輝く」と説明している.

402-403) 少年が武装したときの 97-98 行目と同じ表現. ここでは育ての姉が武装するので三人称になっている.

|    |                      |     |             |  |
|----|----------------------|-----|-------------|--|
|    | サナサプテ                |     |             |  |
|    | [u]sanasapte         | 406 | 出して         |  |
|    | クワ クルカ               |     |             |  |
|    | [u]kuwa kurka        | 407 | 杖の上に        |  |
|    | ノトマレ ワ               |     |             |  |
|    | notomare wa          | 408 | あごをのせ       |  |
|    | ラッチタラ                |     |             |  |
|    | [u]ratcitara         | 409 | しずかに        |  |
| 5  | クッチャム コンナ            |     |             |  |
|    | [u]kutcam konna      | 410 | 美しい声を       |  |
|    | ウウェトウスイセ             |     |             |  |
|    | uwetunuyse           | 411 | 響かせて        |  |
|    | エネ オカ ヒ.             |     |             |  |
|    | ene oka hi.          | 412 | こう言った.      |  |
|    | コニンカラ クス             |     |             |  |
|    | koninkar kusu        | 413 | 「よくお聞きなさい   |  |
|    | アレシパ ビト              |     |             |  |
|    | arespa pito          | 414 | 私の育てたお方     |  |
| 10 | シノ ウタラパ              |     |             |  |
|    | síno utarpa          | 415 | まことの強者      |  |
|    | シノ ラメトク              |     |             |  |
|    | síno rametok         | 416 | まことの勇者      |  |
|    | アパックマ クス ネ コロ        |     |             |  |
|    | apaskuma kusu ne kor | 417 | 先祖の話をするときには |  |

407-408) kuwa kurka not-omare クワ・クルカ・ノツ・オマレ《杖・の上・あご・(そこ)に置く》《杖の上にあごをのせる》。

409) ratcitara ラッチタラ は《ゆつくりと静かに》。

410-411) kutcam クッチャム (恐らく<kut-sam クツ・サム)《のど》。uwetunuyse ウウェトウスイセ は《美しく響く》。

413) koninkar kusu コニンカラ・クス については 64 行目の注を参照。

414) a-respa pito ア・レシパ・ピト《私が・育てた・お方》。pito ピト は、特にあがめ尊ぶべき人をさし、しばしば kamuy カムイ《神》との対句になって使われる語である。

415) ウタラ・パ《人々・の頭》は、語り手によれば「本当にえらい強い人」。行の頭に are ... アレ... と聞こえるのは言いまちがい。

416) síno rametok シノ・ラメトク は、語り手によれば《本当に度胸のある人》。rametok ラメトク は《度胸・大胆・勇猛さ》だが、このように《度胸のある(大胆な、勇猛な)人》をさすこともある。

417) a-paskuma ア・パックマ《私が彼に(ことの次第を)教える》。kusu ne kor クス・ネ・コロ は《...しようにするとき》。

|   |     |                 |
|---|-----|-----------------|
| ハヨクサクアン ノ<br>hayoksak'an no             | 418 | 武装せずに           |
| ソモ アン ペ ネ ワ クシ<br>somo an pe ne wa kus  | 419 | 話すものではありませんから   |
| アエパクマ クシ ネ ナ.<br>aepáskuma kus ne na. ☆ | 420 | 今から話して聞かせますからね。 |
| タパン テ パクノ<br>tapan te pakno             | 421 | 今まで             |
| アエレスパ ボカ<br>5 aeréspa póka              | 422 | あなたを育てるのに       |
| エヤイコラム<br>eyaykoramu                    | 423 | 心を砕き            |
| ベテツネ カネ<br>petetne kane ☆               | 424 | 苦勞して            |
| キ カトゥ<br>ki katu ☆                      | 425 | きたことを           |
| エモト オロケ<br>emoto orke                   | 426 | 初めから            |
| チエパカス<br>10 ciepakasnu                  | 427 | 話して教えて          |
| アエエカラカラ ナ.<br>aeékarkar na.             | 428 | あげますからね。        |

418-423) hayok-sak no ハヨク・サク・ノ は《よろい・をつけない・で》. hayok ハヨク と sak サク がくっついて全体に不定人称主語の接辞 -an -アン がついている. *somo an pe ne* ソモ・アン・ペ・ネ は《するものではない》. 1年半後の語り(「エウカラ 2」)で、この部分について語り手は、「自分の身じたくしなれば」「いざというとき切りかかってきたら自分も切りかえすくらいに」と説明している.

420) a-e-paskuma ア・エ・パシクマ 《私が・あなたに・ことの次第を教える》. ae アエ が ay アイ と発音されている(前出). 録音では kusu クス (=kus クシ)《から、ために》で終わっており、5音節におさまっているが、これでは意味が通じない. 語り手は後日 *kusu ne na kus ne na* クス・ネ・ナ 《...するからね》と訂正した. そのため7音節になってしまった.

421) *tapan te pakno* タパン・テ・パクノは 67行目と同じ.

422) a-e-respa ア・エ・レスパ 《私が・あなたを・育てた》. ae アエ が ay アイ と発音されている.

423-424) e-yaykoramupetetne エ・ヤイコラムペテツネ 《それで・心を砕き苦勞する》. 前の行と合わせて、《大変な苦勞をして私はあなたを育てた》.

424-425) 録音では *petetne katu* ペネツテ・カトゥ と言っているが、後日語り手自身が訂正した.

427-428) *ci-... a-e-ekarkar* チ-... ア・エ・エカラカラ 《私があなたに...する》. つまり《私があなたに教えてあげます》. ae アエ は ay アイ と発音されている(前出). r が n (ナ行音)の前で n になり、... *ekarkan na* ...-エカラカン・ナ と発音されている.

|                                 |     |            |
|---------------------------------|-----|------------|
| シノ ウタラバ<br>sino utarpa          | 429 | まことの強者は    |
| イキネイベカ<br>ikineypeka            | 430 | けっして       |
| トゥム アン ケウトウム<br>tumu an kewtum  | 431 | 憤慨して       |
| イココロ クニ ナ<br>ikokor kuni p ☆    | 432 | 私に敵意を持つのでは |
| ソモ タパン ナ.<br>5 somo tapan na. ☆ | 433 | ありませんよ.    |
| エネ オカ ヒ.<br>ene oka hi.         | 434 | つまりこうです.   |
| テエタ カネ<br>teeta kane            | 435 | 昔むかし       |
| カント オロタ<br>[u]kanto or ta       | 436 | 天の国で       |
| カント コロ カムイ<br>kanto kor kamuy   | 437 | 天の神        |
| シバセ カムイ<br>10 sipase kamuy      | 438 | 尊い神が       |
| トゥ イワツク ネ ワ<br>tu irwak ne wa   | 439 | 二人兄弟でいて    |
| キヤンネ カムイ<br>kiyanne kamuy       | 440 | 年上の神       |
| エアシラナ<br>easirana               | 441 | それこそ       |
| カムイ ラメトク<br>kamuy rametok       | 442 | 神の勇者       |

430-433) 後日の語り手の修正である。録音当時は ikineypeka / tumuan kewtum / ikokor ki na イキネイベカ / トウムアン・ケウトウム / イココロ・キ・ナ《決して / まちがった気持ちをも / 私に対して持たないようにしなさいよ》と語った。日常語では ikiya...na イキヤ...ナ《...しないようにね》。

435) この後に小休止がある。

436) or ta オロ・タ《の所・で》は otta オッタ と発音される(前出)。

442) kamuy rametok カムイ・ラメトク は直訳すると《神の勇猛さ》だが、《勇猛な神》をさしている。《神の勇者》と訳しておく。行の頭に聞こえる音は、言いよんでいる間に出た母音にすぎない。

|                               |     |                  |
|-------------------------------|-----|------------------|
| シバセ カムイ<br>sípase kamuy       | 443 | 尊い神の             |
| ブリ コロ シリ<br>puri kor siri     | 444 | ふるまいは            |
| エネ オカ ヒ.<br>ene oka hi.       | 445 | 次のようでした.         |
| カント オロ タ カ<br>kanto or ta ka  | 446 | 天の国でも            |
| 5 カント コトロ<br>[u]kanto kotor   | 447 | 天の天面を            |
| アツカシ ウシケ<br>[u]apkas uske     | 448 | 歩くところは           |
| ウフイ ワ バイエ.<br>uhuy wa paye.   | 449 | 燃えていきます.         |
| アツカシ フム コ<br>[u]apkas hum ko  | 450 | 歩く音が             |
| トニ ウン ワ<br>[u]toni un wa      | 451 | あちらのほうへ          |
| 10 タニ ウン ワ<br>[u]tani un wa   | 452 | こちらのほうへ          |
| アツカシ フム コ<br>[u]apkas hum ko  | 453 | 歩く音が             |
| モシルマケ<br>mosirumake           | 454 | 国も割れて            |
| セムコラチ<br>semkoraci            | 455 | しまいそうにもものすごい歩き方で |
| アツカシ ランケ.<br>[u]apkas ranke.  | 456 | 歩きまわります.         |
| 15 ウトウル アン コロ<br>uturu an kor | 457 | その間あいだには         |

444) puri-kor プリ・コロ 《素行・持つ》. puri プリ は《習慣、行状》.

446) or ta オロ・タ は otta オッタ と発音される (前出).

451-452) un ウン《へ》の n のあとで wa ワ が ma マ となって (前出), umma ウンマと発音されている.

455) 行の頭に too トオ と聞こえるのは言いまちがひ. ここから拍子をとってたたく (rep レフ) 拍が1拍ずれて、たたく拍とたたかない拍とが逆になっている.

|                 |     |            |
|-----------------|-----|------------|
| アイヌ モシリ         |     |            |
| [u]aynu mosir   | 458 | 人間の国の      |
| モシリソ カシ         |     |            |
| mosirso kasi    | 459 | 地面の上に      |
| コラン ワ オラ        |     |            |
| koran wa ora    | 460 | おりてきて      |
| モシッケシ ウン ワ      |     |            |
| mosirkes un wa  | 461 | 国の下(しも)の端へ |
| モシリパ ウン ワ       |     |            |
| 5 mosirpa un wa | 462 | 国の上(かみ)の端へ |
| トゥ レブン モシリ      |     |            |
| tu repun mosir  | 463 | いくつもの沖の島   |
| モシリソ カシ         |     |            |
| mosirso kasi    | 464 | 外国の地面の上に   |
| フムグシパレ.         |     |            |
| [u]humkuspare.  | 465 | 音を鳴り響かせます. |
| クシ ワ アニ         |     |            |
| [u]kus wa ani   | 466 | 通っていくそばから  |
| ウファイ ワ パイエ      |     |            |
| 10 uhuy wa paye | 467 | 燃えていき      |
| ソッケ ワ パイエ.      |     |            |
| soske wa paye.  | 468 | はがれていきます.  |

460) ko-ran wa コ・ラン・ワ 《(そこ)に・下り・て》。「そこに」とは「人間界の地面の上に」. wa の w が n のあとで m となり(前出), koramma コランマ と発音されている.

461-462) mosir-kes モシリ・ケシ《国土・末端》は北海道の日高から見て有珠や函館の方向, mosir-pa モシリ・パ《国土・上端》は釧路や北見の方向をさす. mosir モシリの r は、歌うために後に i をつけて ri と発音されている(366行目を見よ). un wa ウン・ワ は umma ウンマ と発音されている(前出).

463) 行の頭でちよつと舌がもつれているが言い直している. tu... re... トウ... レ... の対句で《二つも三つも》つまり《いくつもの》を表すが、ここではその前半だけで同じことを表している.

465) hum-kus-pa-re フム・クシ・パ・レ《音・通る(複)・させる》つまり《音を通す》. 語り手は「音がする」と訳した.

466) kus wa ani クシ・ワ・アニ《通つ・て・それで》か. あるいは kus wa an hi クシ・ワ・アン・ヒ《通つ・て・ある・所》か.

468) soske wa paye ソッケ・ワ・パイェを語り手は《むけていく》と訳した. soske ソッケは《(皮が)むける, はがれる》.

|                                 |     |                 |
|---------------------------------|-----|-----------------|
| アッカシ フム コ<br>[u]apkas hum ko    | 469 | 歩く音が            |
| コトゥリミムセ<br>koturimimse          | 470 | ブルンブルンと鳴り       |
| コケウロトツケ.<br>kokewrototke.       | 471 | バリッバリッと響きます。    |
| カムイ ラメトク<br>kamuy rametok       | 472 | 神の勇者が           |
| 5 アッカシ ヒ タ<br>[u]apkas hi ta    | 473 | 歩いていたときに        |
| モシリソ カ タ<br>mosirso ka ta       | 474 | 地面の上に           |
| シネ ボン チキサニ<br>sine pon cikisani | 475 | 一本の小さいハルニレの     |
| ボン メノコ<br>[u]pon menoko         | 476 | 若い女             |
| ピリカ ボン メノコ<br>pirka pon menoko  | 477 | 美しい娘が           |
| 10 アシ ル コンナ<br>[u]as ru konna   | 478 | しっかりと立っているのが    |
| コメウナタラ.<br>komewnatara.         | 479 | なんともすばらしい様子でした。 |
| シラン チキ<br>[u]siran ciki         | 480 | それが見えると         |
| シカンナ カムイ<br>síkanna kamuy       | 481 | 天上の神は           |
| エネ ヤイヌ ヒ.<br>ene yaynu hi.      | 482 | こう思いました。        |

469-471) 神が飛んで歩くときの物音の描写には、ほぼ同じ表現がくりかえされている。  
 475) ci-kisa-ni チ・キサ・ニ《我々が・もみぎる・木》は、《ハルニレ》(木の名称)。昔、この木を、錐のようにもみぎって火をおこすのに使ったので、この名称があるという。同じ語り手がこのユーカラの前に語った伝説(「アイヌ語音声資料 3」 pp. 32f, 本書「2. 異伝」を参照)や、1年半後に語った同じユーカラ(「ユーカラ 2」未刊)では、国造りの神が大地を造った後、地上に置き忘れた鍬が、神の使ったものだから朽ち果てることができなくて、小さいハルニレになって生えたのだと言っている。

478-479) mewnatara メウナタラ は優美な様の表現。語り手は「神様が通って風がどんなに強くてもピンとしっかり立ってかやりも(=倒れも)しない」と説明している。

|                              |     |            |
|------------------------------|-----|------------|
| セコロ アン ベ タ<br>sekor an pe ta | 483 | ああいうものが    |
| バセ カムイ<br>[u]páse kamuy      | 484 | 私と同じくらい尊い神 |
| カムイ メノコ<br>kamuy menoko      | 485 | 女神         |
| ネ ワ ネ ヤクン<br>ne wa ne yakun  | 486 | であったなら     |
| 5 [u]pak rametok<br>パッ ラメトク  | 487 | これほど位の高い   |
| アネ ワ タタタ<br>ane wa taptap    | 488 | 私でも彼女と     |
| ウコラン コロカ<br>ukoran korka     | 489 | 結婚するのだが    |
| カシカムイエウエン<br>kaskamuyewen    | 490 | 憑き神がよくないため |
| ボン チキサニ<br>pon cikisani      | 491 | 小さいハルニレが   |
| 10 ehuyne pakno<br>エフイネ パクノ  | 492 | どんなに       |
| [u]pirka yakka<br>ピリカ ヤッカ    | 493 | きれいでも      |
| アコロ ポカイキ<br>akor pókayki     | 494 | 私がつれそうには   |

483) ta タ は強めの助詞。これに加わってこの行は5音節に整っている。

484) この前に kamuy カムイ《神》と聞こえるのは、言いかけて、言い直したものである。

487-488) 直訳すると《私はこれほどの勇者であって》。つまり、《そのハルニレの女が自分のような高位の神であったならば、これほどの勇者である私(天の神)と、彼女とが結婚するのに》。taptap タタタは強めの助詞。この2音節が入ってこの行が5音に整えられている。

490) kas-kamuy カシ・カムイ は《その上・神》つまり《憑き神》。一人一人に守護神のようにしている神がいるという。kaskamuyewen カシカムイエ・ウエン は《その憑き神が悪い》。語り手によれば「土をちようして(=いじって)使って使って、さんざん使ったものだから、天国にばかりいたのではないから、ちょっとよくない」ことを言っている。

494) pókayki=póka ポカイキ=ポカ 《(せめて)…。だけでも》。217行目の注を参照。



|                                |     |               |
|--------------------------------|-----|---------------|
| アヤイハイタレ<br>ayayhaytare ☆       | 495 | つり合わない        |
| アヤイハイパレ.<br>ayayhaypare. ☆     | 496 | つれそうとができない。   |
| セコロ ヤイヌ コロ<br>sekor yaynu kor  | 497 | そう思いながら       |
| ボン チキサニ<br>pon cikisani        | 498 | 小さいハルニレの木の    |
| エンカシケ クシ ヒ<br>5 enkaske kus hi | 499 | 上を通ったときに      |
| カムイ ヤイヌ ヒ<br>kamuy yaynu hi    | 500 | ——神が思ったことは    |
| トイカ オシマ<br>[u]toyka osma       | 501 | 地に落ちて朽ち果てることが |
| オアレアイカフ.<br>oareaykap.         | 502 | できません。        |
| エベカ クス<br>epeka kusu           | 503 | それですから——      |
| ボン チキサニ<br>10 pon cikisani     | 504 | 小さいハルニレの      |
| カムイ メノコ<br>kamuy menoko        | 505 | 女神は           |

495-496) uyayaytare ウヤヤイタレ と聞こえるが語り手によればまちがいで、次に言っている a-yay-hayta-re ア・ヤイ・ハイタ・レ «私は・自分を・不足する・させる» が正しい。語り手はこれを「自分とつり合わない」と訳した。また、語り手が補ったもう一行の a-yayhaypare ヤイハイパレ は「自分とつれそうとができない」と語り手は訳した。

499) enkaske kus エンカシケ・クシ は《その上の方・を通った》。kus クシ と hi ヒ で kusi クシ と発音される。この hi ヒ は hike ヒケ と同じで、《...したのだが(そのとき)》。

500-502) toy-ka osma トイ・カ・オシマは《地・の上・に落ちる》。尊い神が思ったことや言ったことは、そのまま地中にうもれて朽ちてしまうことはできないとされている。だから、尊い神に思われた女性は妊娠することになる。oar-eaykap オアラ・エアイカフ は《全く・できない》。

503) epeka kusu エベカ・クス《そこに当たる・ために》は、ユーカラの表現で《だから》《したがって》。日常語では hi kusu ヒ・クス という。500-503 行目は挿入句で、話は 499 行目から 504 行目に続く。

|                                    |     |              |
|------------------------------------|-----|--------------|
| ホンコロ ルウェ ネ.<br>honkor ruwe ne.     | 506 | 懐妊しました。      |
| ホンコロ コロカ<br>[u]honkor korka        | 507 | 懐妊しましたけれど    |
| ポコロ ヤクン<br>[u]pókor yakun          | 508 | 子どもが生まれたら    |
| レス クニ クル カ<br>resu kuni kur ka     | 509 | 育てようという人は    |
| エウクシクス.<br>5 [u]ewkuskusu.         | 510 | いませんでした。     |
| エアシラナ<br>easirana                  | 511 | 『それこそ        |
| カムイ ラメトク<br>kamuy rametok          | 512 | 神の勇者が        |
| エアッピセヤラペ<br>eappiseyarpe           | 513 | はらませたもの      |
| ネ ワ ネ ヤクン<br>[u]ne wa ne yakun     | 514 | であるならば       |
| オナ コロ ヤクン<br>10 ona kor yakun      | 515 | その父の子であるならば  |
| オナ カスノ<br>ona kasuno               | 516 | 父親にもまして      |
| ラメトッコロ ナンコロ.<br>rametokkor nankor. | 517 | 勇猛なものになるだろう。 |
| コロ ラメトク<br>[u]kor rametok          | 518 | その勇猛さには      |

506) hon-kor ホン・コロ «腹・持つ» は «妊娠する». r が次の語の r (ラ行音) の前で n ン になり (前出), honkon ruwe ne ホンコン・ルウェ・ネ と発音されている。

508) po-kor ポ・コロ «子・持つ» はその人に子供が生まれることをいう。

509-510) 語り手によれば「だれあずかる (=育てる)?」「いや、おれはいやだな」「そんならお前は?」「私もだめ」「お前は?」「いや私もそんなえらい神様の子、めんどうだ」と言ってみなで拒み合うことを言っている。

513) eappiseyar pe エアッピセヤラ・ペ の pise ピセ はもともと動物の膀胱で、風船のような袋を言う。この場合赤ん坊を宿すことをさしている。-yar -ヤラ は «人にさせる». 語り手は «ひとの腹に持たしたもの」と訳した。

518) kor コロ の r が次の語の r (ラ行音) の前で n ン になり (前出), kon rametok コン・ラメトク と発音されている。

|                                    |     |                |
|------------------------------------|-----|----------------|
| ホン オロ ワノ<br>[u]hon or wano         | 519 | おなかにいるうちから     |
| アコマウヌクリ<br>akomáwnukuri            | 520 | 恐ろしくてだれも近寄る    |
| キ ワ ネ ナ.<br>[u]ki wa ne na.        | 521 | ことができない。』      |
| セコロ ハワシ キ コロ<br>sekor hawas ki kor | 522 | と皆が言っていて       |
| インキ カムイ<br>5 [u]jinki kamuy        | 523 | どの神も           |
| エレス クニ プ<br>eresu kuni p           | 524 | あなたを育てようとするものは |
| シネン カ イサム.<br>sinen ka isam.       | 525 | 一人もいませんでした。    |
| ネ ヒ オロ タ<br>ne hi oro ta           | 526 | そのときに          |
| チュプ カムイ アネ<br>cup kamuy ane        | 527 | 月の神である私が       |
| カムイ ニシ カワ<br>10 kamuy nis ka wa    | 528 | 天の神の国から        |
| アエヌカラ キ ワ<br>aenukar ki wa         | 529 | あなたを見て         |
| アエレスパ カトウ<br>aerespa katu          | 530 | あなたを育てたのは      |

519) 直訳すると《腹・の所・から》。つまり《おなかにいるうちから》。

520) nukuri スクリ は《(氣力がなくて) . . . ができない, おっくうだ》. a-ko-maw-nukuri ア・コ・マウ・ヌクリ は《私 / 我々は・氣・がこわくて近寄れない》。語り手は《恐ろしくてだれも寄ることできない》と訳した。

523) urinki ウリンキ と聞こえるが語り手によれば [ujinki ウ・インキ. inki インキは《どの》, 日常語では inan イナン。

527) cup kamuy ane チュプ・カムイ・アネ は《私は月の神であり》。つまり《月の神である私が》。「4. 日本語訳について」の「育ての姉」の項を参照。

528) kamuy nis ka wa カムイ・ニシ・カワ《神・空・の上・から》つまり《神の国である天上から》。

529) a-e-nukar ア・エ・ヌカラ《私が・あなたを・見た》。ae アエ が ay アイ と発音されている(前出)。

|                                 |     |              |
|---------------------------------|-----|--------------|
| アシヌマ ネ クシ<br>asinuma ne kus     | 531 | 私だからこそ       |
| アエレスパ キ ワ<br>aeréspa ki wa      | 532 | あなたを育てたので    |
| タパン テ パクノ<br>tapan te pakno     | 533 | 今まで          |
| オカアン コロカ<br>okaan korka         | 534 | 一緒に暮らしてきましたが |
| タネ アナクネ<br>5 tane anakne        | 535 | 今は           |
| シオッカヨ エネ コロ<br>siokkayo ene kor | 536 | あなたは立派な男子になり |
| エネ ネ ヤクネ<br>ene ne yakne        | 537 | そのようであるなら    |
| アイヌ モト<br>[u]aynu moto          | 538 | あなたは人間の始祖に   |
| エネ クニヒ<br>ene kunihi            | 539 | なるために        |
| カムイ カラ クス<br>10 kamuy kar kusu  | 540 | 神につくられたのですから |
| レプイソ カ ワ<br>repuyso ka wa       | 541 | 沖の方から        |
| アトゥイソ カ ワ<br>atuyso ka wa       | 542 | 海の方から来た      |
| シバセ カムイ<br>sípase kamuy         | 543 | 尊い神          |
| カムイ メノコ<br>kamuy menoko         | 544 | 女神を          |

531) asinuma ne kus アシヌマ・ネ・クシ《自分(私)・である・から》。語り手は「自分なりやあこそ」と訳した。

532) a-e-respa ア・エ・レスパ《私が・あなたを・育てた》。ae アエ が ay アイ と発音されている(前出)。その後 ki キ《する》が置かれて5音節に整えられている。

533) tapan te pakno タパン・テ・パクノ《今まで》(前出)。

536) si-okkayo シ・オッカヨ《真の・男》《大きな・男》。

538-540) 語り手は「お前が人間のもとになるために神様がこしらったのは」と訳した。

541) rep-un-so レプ・ウン・ソ《沖の・場所》。n ン が s の前で y イ になるので repuyso レプイソ と発音される。

|                                |     |                 |
|--------------------------------|-----|-----------------|
| ポロマツ ネ エコロ<br>poromat ne ekor  | 545 | 第一の妻としてめとり      |
| キム ウン イウオロ ワ<br>kim un iwor wa | 546 | 山の方から来た         |
| カムイ メノコ<br>kamuy menoko        | 547 | 女神を             |
| ポンマツ ネ エコロ<br>ponmat ne ekor   | 548 | 第二の妻としてめとり      |
| エウピラスパ.<br>5 eupiraspa.        | 549 | そうやって子孫をふやしなさい。 |
| アイヌ アナク<br>[u]aynu anak        | 550 | 人間は             |
| エボコロ ヤクン<br>epokor yakun       | 551 | あなたが子を持てば       |
| エポウタリ<br>epoutari              | 552 | あなたの子どもたちが      |
| ウピラスパ ワ<br>upiraspa wa         | 553 | ふえて             |
| ボン チクニ<br>10 [u]pon cikuni     | 554 | あなたは小さな木から      |
| オモトコロ ペ<br>omotokor pe         | 555 | 生まれたもの          |
| エネ アン クス<br>ene an kusu        | 556 | なのですから          |
| エレコロ カトウ<br>erekor katu        | 557 | あなたの呼び名は        |

545-548) poro-mat ポロ・マツ《大きい・妻》は《第一の妻》、pon-mat ポン・マツ《小さい・妻》は《第二の妻》。昔、一人の夫が二人の妻を持った話はよくあり、その場合正妻(本妻)が poromat ポロマツ と呼ばれ、第二の妻が ponmat ポンマツ と呼ばれた。ne ネ はこの場合《...として》。

549) e-u-piraspa エ・ウ・ピラスパ《それで・互いを・広げる》。つまり、《そうすることによって子孫が増える》。沙流地域の日常語では、ewpiraspa エウピラスパ のように、語頭の二つの母音は一つの二重母音に発音されるが、歌うときはこのように二つの単母音として出てくる。

555) o-moto-kor オ・モト・コロ《そこに・起源・持つ》。

556) 語り手は「お前が生まれているんだから」と訳した。行の頭で unina ウニナ と聞こえるのは言いまちがひ。

557) e-re-kor エ・レ・コロ《あなたが・名前・持つ》。

|  |     |             |
|--|-----|-------------|
| アイヌラックル<br>[u]Aynurakkur               | 558 | アイヌラックル     |
| エネ ルウエ ネ.<br>ene ruwe ne.              | 559 | というのです。     |
| エベカ クス<br>epeka kusu                   | 560 | ですから        |
| ネイ タイウオロ<br>[u]nei ta iwor             | 561 | どこの土地       |
| ネイ タ モシリ<br>5 [u]nei ta mosir          | 562 | どこの島も       |
| エアロケレ<br>earokere                      | 563 | 全部くまなく      |
| エアツカシ ヤック<br>eapkas yakka              | 564 | あなたが歩いても    |
| アエレコ カトウ<br>aeréko katu                | 565 | あなたの呼び名は    |
| オウフイ シッカ<br>Ouhuy sirka                | 566 | 『裾の燃える刀     |
| オウフイ ニカフ アットウシ<br>10 Ouhuy níkap attus | 567 | 裾の燃える厚司の着物』 |
| セコロ アエレコ.<br>sekor aeréko.             | 568 | と呼ばれます。     |
| モシリ シツチレ<br>Mosir sitcire              | 569 | 国を焼きはらい     |

- 558) aynu-rak-kur アイヌ・ラク・クル «人間・くさい・人». 人類の始祖の名称である。rak ラクは「油くさい」などの「...くさい」にあたる語。
- 561-562) nei ta ネイ・タ «どこ・に/で/の» は neyta ネイタ と2音節に発音されている。
- 563) ear-okere エアラ・オケレ «全く・終える». 語り手は「全部」と訳した。
- 565) a-e-reko ア・エ・レコ «ひとが・あなたを・名付ける». すなわち «あなたは名付けられる». 573 行目のも同じ。ae アエ が ay アイ と発音されている (前出)。
- 566-567) ohuuhuy オフウフイ と聞こえるが ouhuy オウフイ。o-uhuy オ・ウフイ «その尻 (=すそ) が・燃える». ni-kap attus ニ・カフ・アットウシ は «木・皮・厚司» «樹皮の厚司». 語り手は「初めは木の皮でも厚司を作った」と説明している。今厚司 (attus アットウシ) と言えば、オヒョウニレ (atni アツニ) の木の皮の繊維 (at アツ) を織って作った布、またそれで作った着物である。この神が飛び歩くときは、通るところをすべて焼き払って歩き、さしている刀も着ているものも裾が焦げているという。

|                                 |     |              |
|---------------------------------|-----|--------------|
| コタン シツチレ<br>Kotan sitcire       | 570 | 村を焼きはらう      |
| シバセ カムイ<br>sípase kamuy         | 571 | 尊い神          |
| カムイ カラ ペ タブ<br>kamuy kar pe tap | 572 | 神があなたをつくった   |
| エネ ワ タブ タ<br>ene wa tap ta      | 573 | のですから        |
| シノ ウタラバ<br>5 síno utarpa        | 574 | まことの強者に      |
| エネ ワ エアン コロ<br>ene wa ean kor   | 575 | なられて         |
| エマツコロ クニ<br>ematkor kuni        | 576 | あなたが妻をめとるように |
| チエバカシヌ<br>ciepakasnu            | 577 | お教え          |
| アエエカラカラ クシ<br>aeékarakar kus    | 578 | するために        |
| タナント オロ タ<br>10 tananto or ta   | 579 | 今日           |
| アエエキムネレ ワ<br>aeékimnere wa      | 580 | 私はあなたを山へ行かせて |
| エマトウタリ<br>ematutari             | 581 | あなたの妻たちを     |
| アアラキレ ワ<br>aarkire wa           | 582 | 来させて         |

- 572-573) tap タブ も ta タ も強めの助詞. kamuy kar pe ene wa カムイ・カラ・ペ・エネ・ワ《あなたは神がつくった(=神につくられた)もので》.
- 576) e-mat-kor エ・マツ・コロ《あなたが・妻・持つ》.
- 577-578) ci-... a-e-ekarkar チ-... ア・エ・エカラカラ《私があなたに...する》. ae アエ が ay アイ と発音されている(前出).
- 579) tanan to or ta タナン・ト・オロ・タ=tanto タント(前出). or ta オロ・タ は otta オッタ と発音される.
- 580) a-e-ekimne-re ア・エ・エキムネ・レ《私が・あなたを・山へ行く・させる》. ae アエ は ay アイ と発音されている.
- 581) e-mat-utar-i エ・マツ・ウタラ・イ《あなたの・妻・人々・(所属語尾)》つまり《あなたの妻たち》. 妻になるべき人たちだからこう言っている.
- 582) a-arki-re ア・アラキ・レ《私が・来る(複)・させる》. つまり《私が彼らを来させた》.

|                                  |     |            |
|----------------------------------|-----|------------|
| アエヌカレ シリ<br>aenúkare siri        | 583 | あなたに会わせての  |
| ネ ワ ネ クシ<br>[u]ne wa ne kus      | 584 | でしたから      |
| カムイ メノコ<br>kamuy menoko          | 585 | 女神の        |
| ウタラ オロケへ<br>utar orkehe          | 586 | 方たちを       |
| 5 エコロ ワ ネ ヤク<br>5 ekor wa ne yak | 587 | おめとりになって   |
| エチウピラスパ ワ<br>eciupíraspa wa      | 588 | 子孫を繁栄させて   |
| ピリカ ポン ニタイ<br>pirka pon nítay    | 589 | 美しい小さな木立ちが |
| シピラサ ヒ<br>sipirasa hi            | 590 | ふえてひろがる    |
| セムコラチ<br>[u]semkoraci            | 591 | 様のそのままに    |
| 10 エタカスレ<br>10 etakasure         | 592 | それ以上に      |
| エチシピラスパ ワ<br>ecisipíraspa wa     | 593 | あなた方がふえて   |
| エチインネルピ<br>eciínnerupi           | 594 | 大勢の子孫が     |
| モシリ エピッタ<br>mosir epitta         | 595 | 国じゅうに      |

583) a-e-nukar-e ア・エ・ヌカラ・エ 《私が・あなたに・見る・させる》。つまり《私があなたに女たちを見させた》。

593) si-piraspa シ・ピラスパ 《自身を・広げる(複)》。553行目、588行目の upiraspa ウピラスパ とほぼ同義。590行目の sipirasa シピラサ は単数形。

594) eci-inne-rup-i エチ・インネ・ルッ・イ 《あなたたちの・大勢の・群・(所属語尾)》。語り手は「おおぜい」と訳した。子孫が大勢になって繁栄することを予言している。

595) mosir モシリ は歌うために mosiri モシリ と発音されている(前出)。



シピラッパ ナンコロ ナ。  
sipiraspa nankor na.

596 広がるようになさいます。」

セコロ イパックマ。  
sekor ipaskuma.

597 と話ってくれた。

---

596) sipiraspa シピラシパ の途中までふしをつけて歌い、ここからはふしなしで言っている。nankor ナンコロ の r は次の n の前で n ン になり、nankonna ナンコンナ と発音されている。

597) i-paskuma イ・パックマ《私に・伝え教える》。つまり育ての姉が主人公の少年にこのように言ってその素性を教えてくれたという結びのことばである。このあとに聞こえる「ていうの」は日本語である。